

佐賀大学国際交流推進センター 平成23・24年度年報

Annual Reports of Center for Promotion of International Exchange
Saga University October 2011-March 2013



佐賀大学

ANNUAL REPORTS

挨拶

国際交流推進センター長
研究・国際・社会貢献担当理事／副学長

中 島 晃



佐賀大学は、これまでに多くの留学生を受け入れ、また、海外の研究者との学術交流を活発に行って参りました。平成18年に制定された“佐賀大学憲章”において、本学は「アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献する」と宣言していますが、平成23年1月には6つの基本構想と7つの戦略から成る“佐賀大学国際戦略構想”を策定しました。そして本学の国際交流を戦略的に展開するために、既設の留学生センターを改組し、平成23年10月1日に佐賀大学国際交流推進センターを新たに設置致しました。その目的は、国際交流を大学として組織的に支援するとともに、これまで実践してきた留学生に対する国際教育プログラムの拡充、研究者の受入れのさらなる推進や本学の学生・研究者の海外派遣の拡大など、国際交流の新しい潮流を創り出し、大学の国際化の進展に寄与することにあります。

また、本センターは、佐賀大学だけでなく、県内の行政機関や国際交流団体などと連携して佐賀地域の国際化を推進し支援する組織として機能することも目指しています。

このような事業を推進していくため、センターには、「国際交流企画推進室」、「地域国際連携室」、「学生交流部門」、「学術研究交流部門」を置くとともに、医学部キャンパスに「鍋島サテライト」を設置致しました。

本国際交流推進センターが、佐賀大学の国際化の進展に大きく貢献することはもとより、地域の国際交流の拡充の推進役として機能することを念願しています。平成24年度は国際交流推進センターが本格始動した年でありましたが、今般取りまとめた「国際交流推進センター平成23・平成24年度年次報告書」をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

平成25年3月31日

目 次

挨拶	1
平成23年度 年報	
I. 国際戦略に基づく組織整備	4
II. 佐賀大学海外同窓会ネットワーク構築のためのヒヤリング調査	7
平成24年度 年報	
I. 国際交流企画推進室	16
1. 平成24年度の国際戦略構想の実施方針	16
2. 情報発信の改善	16
3. 平成24年度佐賀大学国際交流推進センターセミナー	17
4. 「佐賀大学友好特使」制度の制定	18
5. 佐賀大学ハノイ・サテライトの活動	18
II. 学生交流部門	19
1. 留学生受け入れ	
1.1 佐賀大学の留学生受け入れ態勢の再整備	19
1.2 佐賀大学短期交換留学プログラム実施報告	22
1.3 平成24年度日本語・日本文化研修コース	26
1.4 平成24年度日本語研修コース	27
2. 学生の海外派遣	
2.1 交換留学生の派遣	28
2.2 短期派遣プログラムの企画・調査・派遣	30
2.3 学生の海外派遣支援経費（国際化支援制度）	35
2.4 海外研修における危機管理体制概要	41
3. キャンパスの国際化	
3.1 留学生・日本人学生交流プレゼンテーションプロジェクト	43
3.2 ランゲージ・ラウンジ	44
III. 学術研究交流部門	
1. 研究者海外派遣の支援	45
2. 国際研究集会の支援	48
IV. 地域国際連携室	
1. 「平成24年度産学官国際交流セミナー」の開催	49
2. 佐賀大学国際交流推進センター主催講演会	51

平成23年度 年報

I. 国際戦略構想に基づく組織整備

平成23年10月に設置された国際交流推進センターの目的は、平成23年1月に策定された「佐賀大学国際戦略構想」に従って佐賀大学の国際化と国際交流を推進することである。

平成23年度の後半期は、「佐賀大学国際戦略構想」に示された国際交流推進センターの組織案にもとづいて国際交流推進センター内部の組織づくり及び運営委員会の設置など組織体制の整備を行った。それを受けて、平成24年度より国際交流推進センターは本格的な活動を開始した。

そこで、まず国際交流推進センターの業務を司る「佐賀大学国際戦略構想」の概要を示し、次に平成23年度に実施した組織体制整備の概要、さらに平成24年度の業務の基本方針を述べる。

1. 佐賀大学国際戦略構想の概要

「国際戦略構想」では、佐賀大学の国際化の特徴である教員の「草の根」による国際交流の蓄積を重視した上で、組織的かつ機能的な観点を加えた国際化が必要であるとしている。また、日本人学生の国際化を重点課題とし、学生に的確な国際的視点を備えさせる「手段」としての「新国際教育プログラム」等の創立を提案し、国際的な就業力を備えた人材育成とその輩出を行うことを提言している。

さらに「国際戦略構想」では、総合的な国際交流推進体制を国際交流推進センターが核となり、本学の国際化を組織的に推進することを目指すこととしている。

「国際戦略構想」は、本学の国際化を飛躍的に高めることを目指して、以下の7つの戦略と4つの到達イメージを提案している。

戦略1：英語特別コース等を拡充した新国際教育プログラム、新特別コースの再構築

留学生の質を重視する観点から、大学院留学生の国際教育に重点を置くこととし、「日本に強い留学生」の輩出を目指し、既存の国際教育プログラムの改善、改編を行なって、「新国際教育プログラム」を構築する。

戦略2：海外を志向する日本人学生向けの国際教育プログラム

留学を希望する日本人学生のため、あるいは日本人学生を留学へと啓発するため、留学の動機づけとなる部局横断型の国際教育プログラムを創設し、「海外に強い日本人学生」の輩出を目指した方策を実施する。

戦略3：国際化の先導となる学術分野及びプログラムの選択と集中

複数の分野に国際化を先導する可能性のあるプログラムが出現している。本学の国際化を先導する分野とプログラムを選択し、組織的に集中支援することにより、効率的に本学の国際化の深化を図る。

戦略4：留学生・外国人教員等に係わる国際化支援制度の創設

国際化に貢献する学生及び教員を引き出すために、経済的支援と事務支援に関する制度を整備する。

戦略5：企業や地域と連携する国際化の実践プロジェクト

留学交流体験学生（留学生及び日本人学生）を対象に、企業インターンシップの体験学習、日本企業や海外企業への就職支援を、地域及び産業界との連携・協力を得て、実現できる体制の構築を図る。

戦略6：受入れ及び派遣重点大学の指定とこれまでに輩出した海外研究者・教育者との連携による留学生・研究者の受入れ

帰国後研究者・教育者、企業人等として活躍している優秀な留学生OBのネットワーク組織を構築し、留学生のリクルートと就業活動に対する協力支援体制を築くとともに、重点交流大学との間の教育・研究交流を強化し、独自のジョイントプログラムの開発を行なう。

戦略7：国際広報と国際支援体制の強化

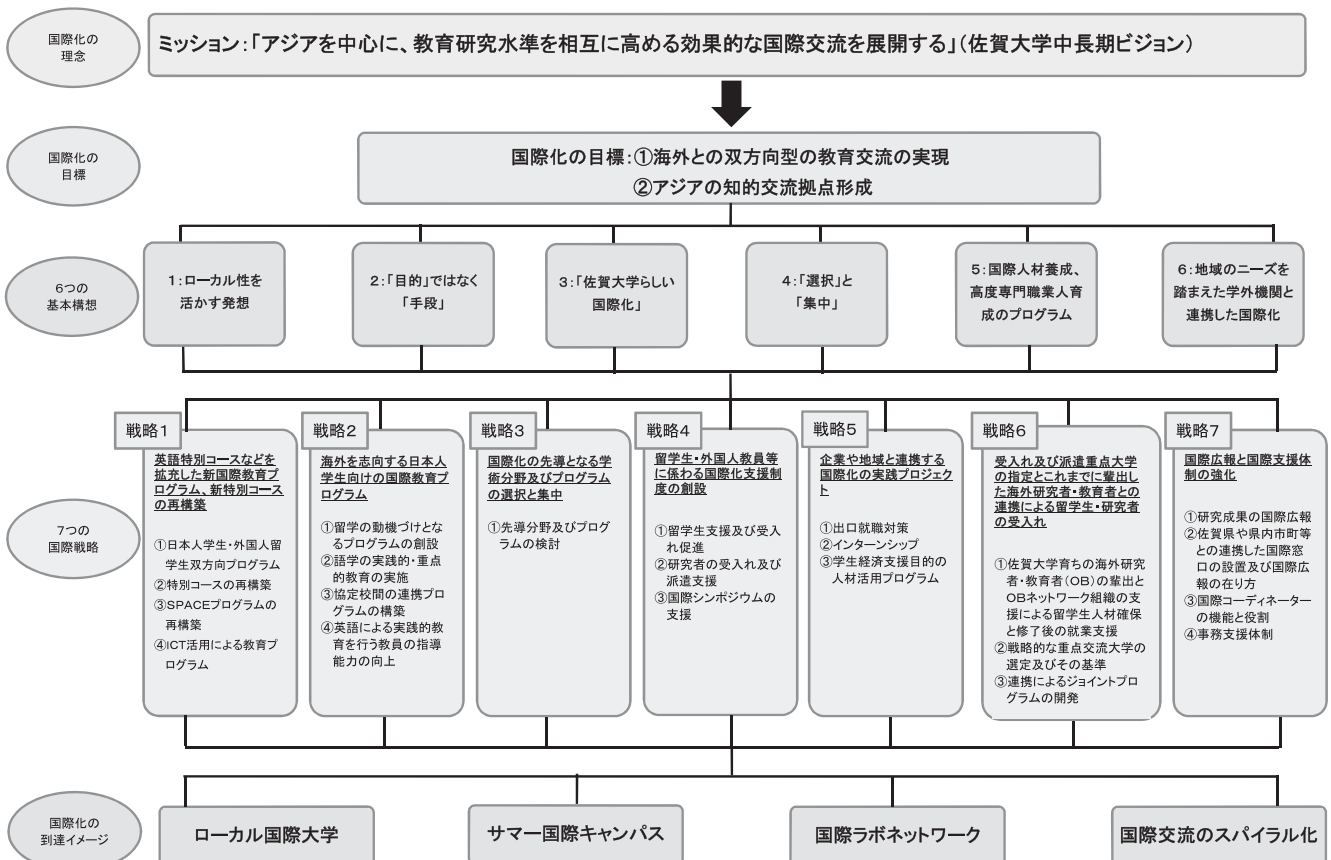
研究活動と国際教育プログラムを海外にアピールするため国際広報を開始するとともに、地域（行政、企業）と連携して地域・産学連携国際交流を展開する窓口と広報の設置を検討する。

以上の戦略の推進によって実現する本学の国際化の具体的な到達イメージとなる4つのモデル、

- 〈ローカル国際大学〉
- 〈サマー国際キャンパス〉
- 〈国際ラボネットワーク〉
- 〈国際交流のスパイラル化〉

を掲げている。

佐賀大学国際戦略構想の概要図



2. 平成23年度の組織体制整備の実施概要

平成23年10月に国際交流推進センターが設置されたことにより、国際交流推進センターの組織体制の確立が初年度である平成23年度における基本方針となった。

そのため以下のことを行った。

- 事務体制の整備：国際課が全ての事務を担うことを確定した。
- 運営委員会の設置：各部局から代表の教員が選考され、センターの運営に関わる重要事項の全てを審議する組織を設けた。
- 室・部門の体制整備
- コーディネーターの人材確保

3. コーディネーターの選考及び室・部門の体制づくりの経緯

平成23年10月1日に国際交流推進センターが設置され、ただちに各部局代表教員（11名の併任教員）で構成される国際交流推進センター運営委員会を組織した。

同時に、国際コーディネーター3名（専任教員2名、契約コーディネーター1名）の人事に着手した。

10月1日より1か月間公募を行った結果、海外からの応募を含め多数の応募者が集まった（教授職14名、准教授職52名、契約コーディネーター職15名）。書類審査と面接を経て、第3回国際交流推進センター運営委員会（平成23年12月16日開催）において教授職、准教授職、契約コーディネーター職の最終候補者を確定した。採用が決定した新任のコーディネーターは、藤田清士教授、山田直子准教授、山田佳奈美コーディネーターの3名である。

また、学内の部局から28名の併任教員が選抜され、国際交流推進センターの4つの室・部門の陣容体制が平成23年度3月末までに整った。平成24年4月1日の組織体制は以下のとおりである。

- ・センター長：理事（研究・国際貢献担当）・副学長 中島 晃
- ・副センター長：本学の専任教授 外尾 一則
- ・鍋島サテライト長：本学の専任教授 青木 洋介
- ・国際コーディネーター：専任教授 藤田 清士
専任准教授 山田 直子
事務系職員 山田佳奈美
- ・国際交流企画推進室：室長・外尾一則、6名の併任教員
- ・地域国際連携室：室長・新井 康平、2名の併任教員
- ・学生交流部門：部門長・山田 直子、11名の併任教員
- ・学術研究交流部門：部門長・杉山 晃、3名の併任教員
- ・国際マネージャー：国際課課長 永田 恒久
- ・事務職員：国際課所属職員
- ・国際アソシエイト：留学生臨時雇用

Ⅱ. 佐賀大学海外同窓会ネットワーク構築のためのヒヤリング調査

佐賀大学国際戦略構想に掲げられる佐賀大学の海外同窓会ネットワークの構築を目指し、海外で活躍する中国、インドネシア、スリランカ、タイ、ベトナムの卒業生を5名招き、平成24年3月5日から28日の期間でヒヤリング調査を実施した。

中国海洋大学 王玉明教授（2003年連大農学研究科博士課程後期修了）

インドネシア財務省勤務 シャフリアディ氏（2010年工学系研究科博士課程終了）

ペラデニア大学 サリヤ・デ・シルバ准教授（2006年連大農学研究科博士課程修了）

モンクット王ラカバン工科大学 パンマナス・シリソンボーン准教授（2001年連大農学研究科博士課程修了）

ベトナム国家大学外国語大学 講師 トゥリン・ティ・ゴック・ラン講師（教育学研究科修士課程修了）

調査の結果、スリランカおよびタイではすでに同窓会組織を立ち上げ、定期的に会合を開いていることがわかった。また高等教育機関に就職した卒業生は本学との共同研究の発展や学生交流の促進を期待しており、具体的な提案が示された。今後公式に同窓会の海外支部を設置する可能性も含め、本学と各国との関係強化を図る取り組みを行う際の現地コンタクトパーソンとしての役割を担っていただけることを確認した。

資料 1 : 学長・理事表敬訪問

- 平成23年10月11日 天津工業大学（中国） 中島理事表敬訪問
Xiao Changfa 副学長他 3 名が来訪



- 平成23年11月16日 廈門理工学院（中国） 瀬口理事表敬訪問
黄紅武学長他 6 名が来訪



- 平成23年12月7日 マラン国立大学（インドネシア） 大学間学術交流協定及び学生交流覚書の調印式
H. Sparno 学長他 3 名が来訪



- 平成24年1月31日 ペラデニア大学（スリランカ） 中島理事表敬訪問
Namal Priyantha 理学部化学科教授が来訪

- 平成24年2月10日 遼寧大学（中国） 工学系研究科パートナーシッププログラム開催に伴う中島理事表敬訪問
宗溪明教授他 5 名が来訪

国際交流推進センター長

中島 晃 理事

国際交流推進副センター長 外尾 一則 教授

国際コーディネーター 山田 直子 准教授（平成24年3月1日～）

国際コーディネーター 山田佳奈美 （平成24年1月1日～）

国際交流推進センター運営委員会委員

中島 晃 理事・国際交流推進センター長

外尾 一則 教授・国際交流推進センター副センター長

青木 洋介 教授・鍋島サテライト長

外尾 一則 教授・国際交流企画推進室長

新井 康平 教授・地域国際連携室長

Houghton Stephanie Ann 准教授・学生交流部門長

高島 千鶴 教授（文化教育学部）

ラタナーヤカ ピヤダーサ 教授（経済学部）

奈須 祐治 准教授（経済学部）

熊本 栄一 教授（医学部）

村松 和弘 教授（工学系研究科）

野間口眞太郎 教授（農学部）

早瀬 博範 教授（全学教育機構）

遠藤 隆 教授（教養教育運営機構）

横溝紳一郎 教授（全学教育機構）

古賀 弘毅 准教授（全学教育機構）

中山亜紀子 准教授（全学教育機構）

光武 勲（国際課長・国際マネージャー）

山田佳奈美（国際コーディネーター 平成24年1月1日～）

国際交流企画推進室

外尾 一則 教授・室長

北川 慶子 教授（文化教育学部）

早瀬 博範 教授（文化教育学部）

ラタナーヤカ ピヤダーサ 教授（経済学部）

高野 吾朗 准教授（医学部）

萩原 世也 教授（工学系研究科）

辻 一成 准教授（農学部）

学生交流部門

Houghton Stephanie Ann 准教授・部門長（文化教育学部）
 中尾友香梨 講師（文化教育学部）
 小田 康友 准教授（医学部）
 村松 和弘 教授（工学系研究科）
 上野 大介 講師（農学部）
 横溝紳一郎 教授（留学生センター）
 古賀 弘毅 准教授（留学生センター）
 丹羽 順子 准教授（留学生センター）
 中山亜紀子 准教授（留学生センター）
 山田 智久 講師（留学生センター）
 吉川 達 講師（留学生センター）
 Coleman South 准教授（高等教育開発センター）

学術研究交流部門

杉山 晃 教授・部門長（工学系研究科）
 熊本 栄一 教授（医学部）
 大渡 啓介 教授（工学系研究科）
 野間口眞太郎 教授（農学部）

地域国際連携室

新井 康平 教授・室長（工学系研究科）
 田中 豊治 教授（文化教育学部）
 田中 宗浩 准教授（農学部）

鍋島サテライト

青木 洋介 教授
 熊本 栄一 教授
 高野 吾朗 准教授
 小田 康友 准教授

学術研究協力部 国際課職員

課長	光武 勲
係長（国際企画）	宮原 茂幸
係長（国際交流）	水田 則子
係長（留学生交流）	黒木 浩（平成24年1月1日～）
主任	副島加代子
主任	木村 政治
事務補佐員	夏秋 悠希
事務補佐員	真崎万里子
技術補佐員	王丸 文子

資料3：平成23年度 留学生数

国名 Countries	学部等 Faculties	学部 Undergraduates					大学院 Graduate Schools			
	文化教育学部 Faculty of Culture and Education	経済学部 Economics	医学部 Medicine	理工学部 Science and Engineering	農学部 Agriculture	修士課程（博士前期） Master's Course				
						教育学研究科 Education	経済学研究科 Economics	医学系研究科 Medicine	工学系研究科 Science and Engineering	
大韓民国 Republic of Korea	2			1		1			1	
中華人民共和国 People's Republic of China	3	23		12	2	13	13		9	
台湾 Taiwan			1							
タイ王国 Kingdom of Thailand										
マレーシア Malaysia	1			7						
インドネシア共和国 Republic of Indonesia									2	
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka							1			
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh										
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	1					4				
モンゴル国 Mongolia		1								
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal										
ポーランド共和国 Republic of Poland										
ウガンダ共和国 Republic of Uganda										
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran										
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic										
アメリカ合衆国 United States of America										
パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan										
計 Total	7	24	1	20	2	18	14	0	12	

Ⅱ. 佐賀大学海外同窓会ネットワーク構築のためのヒヤリング調査

平23. 5. 1 現在

国名 Countries	学部等 Faculties	大学院 Graduate Schools					研究生 科目等 履修生 特別聴講 学生 Research Part-Time Students Special Audit	鹿児島大学 大学院連合 農学研究科 United Graduate School of Agricultural Kagoshima University	日本語 研修 コース Intensive Japanese	小計 Subtotal		合計 Total	
		修士課程 (博士前期) Master's Course	博士課程 Doctoral Course	博士後期 Doctoral Course	特別コース 博士前期／修士 PSJP Course Master's					特別コース 博士後期 PSJP Course Doctoral	国費 National Expense		私費 Private Expense
		農学研究科 Agriculture	医学系研究科 Medicine	工学系研究科 Science and Engineering	工学系研究科 Science and Engineering	農学研究科 Agriculture				工学系研究科 Science and Engineering			
大韓民国 Republic of Korea			1	1			14		0	21	21		
中華人民共和国 People's Republic of China	5	5	18	10		4	42	2	9	152	161		
台湾 Taiwan			1		1		8		0	11	11		
タイ王国 Kingdom of Thailand					1	3		1	2	3	5		
マレーシア Malaysia		1	3			1			1	12	13		
インドネシア共和国 Republic of Indonesia		4	12		1	7	1	6	0	33	33		
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka			1		2	1	3	2	5	5	10		
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh			3			4	1	7	10	5	15		
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam			2				5	2	3	11	14		
モンゴル国 Mongolia									0	1	1		
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal			2			4		1	2	5	7		
ポーランド共和国 Republic of Poland						1			1	0	1		
ウガンダ共和国 Republic of Uganda								1	1	0	1		
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran				1					0	1	1		
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic					1				1	0	1		
アメリカ合衆国 United States of America							1		0	1	1		
パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan			1						0	1	1		
計 Total	5	10	44	12	6	25	75	22	0	35	262	297	

資料４：国際交流推進センター事業関連の海外出張・訪問

期間	行先（国）	訪問先	用件	出張者名
平成23年10月 10日～15日	ベトナム	ハノイ農業大学	ハノイ農業大学創立55周年式典への参加	外尾 一則 副センター長 辻 一成 准教授（農）
平成23年10月 24日～27日	中国	遼寧大学	佐賀県瀋陽代表事務所、開所記念セミナーレセプション、及び開所式参加、遼寧大学訪問	中島 晃 センター長 木村 政治 主任
平成23年11月 15日～17日	韓国	培材大学	第7回環黄海学長フォーラムへの参加、培材大学校訪問	中島 晃 センター長 宮原 茂幸 係長
平成24年 3月 4日～7日	ベトナム	ベトナム国家大学	ベトナム国家大学群表敬訪問	光武 勲 国際課長 山田佳奈美 コーディネーター
平成24年 3月 11日～15日	オーストラリア	シドニー工科大学	学術交流協定の締結に向けての会合及び日本語の授業、留学生寄宿の見学	早瀬 博範 教授（文教） 中山亜紀子 准教授（全学） 木村 政治 主任

資料５：平成23年度国際交流推進センター関連行事カレンダー

平成23年10月 1日	国際交流推進センター設置
28日	第1回 国際交流推進センター運営委員会
11月11日	第2回 国際交流推進センター運営委員会（メール会議）
12月16日	第3回 国際交流推進センター運営委員会
平成24年 1月24日	第1回 国際交流推進センター教員連絡会
30日	第4回 国際交流推進センター運営委員会
2月23日	第5回 国際交流推進センター運営委員会
3月12～31日	佐賀大学同窓会ネットワーク構築のための海外留学生ヒヤリング調査
29日	第6回 国際交流推進センター運営委員会

平成24年度 年報

I. 国際交流企画推進室

1. 平成24年度の国際戦略構想の実施方針

国際交流推進センターでは設置後の本格的な活動の第一歩として、留学生センターが従来実施してきた留学生の受け入れ支援を継続的に発展させるとともに、日本人学生の海外留学支援を本格化することを取組みの第一の重点的な柱とすることにした。さらに教員・研究者の「草の根交流の伝統」を活かして、組織化された研究者交流支援の実施を第二の柱として重点的に取り組むことを基本方針とした。即ち佐賀大学の国際交流の原点ともいえるべき学生と教員のそれぞれの交流に対して早期に支援制度の仕組みを確立し、交流体制を強化することを初年度の目標とした。

また、取組みの結果実現される到達目標である国際化モデルには、佐賀大学の特質を発揮できるとともに、もっとも実現可能な「ローカル国際大学」を目指すことにした。

以上の基本方針に基づいて、具体的に取り上げる戦略として、

国際戦略1：「英語特別コースなどを拡充した新国際教育プログラム、新特別コースの再構築」

国際戦略2：「海外を志向する日本人学生向けの国際教育プログラム」

国際戦略4：「留学生・外国人教員等に係わる国際化支援制度の創設」

を中心に据えることにした。

2. 情報発信の改善

国際交流推進センターの広報活動として、ホームページを刷新した。ホームページは従来の情報提供のみでなく、学生と各種申し込み機能などを導入し、インタラクティブな機能を備えた。また、多言語化にも対応できる



<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/>



<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/en/>

設計となっている。さらに大学全体の紹介を簡略に説明できる4ヶ国語（英語・中国語・韓国語・日本語）の冊子も新たに作成した。



多言語による大学広報冊子

3. 平成24年度佐賀大学国際交流推進センターセミナー

「外国人留学生の教育・指導・支援を考える

—教職員による支援と学生によるピアサポート—の開催

【概要】

近年、日本の大学が教育の国際化を推進するなか、多くの大学が質の高い外国人留学生の獲得と留学生受け入れ体制の整備を重要課題として位置づけている。留学生の存在がキャンパスの異文化環境を促進し、グローバル人材育成の可能性を広げることが理解されながらも、留学生に対する教育・指導・支援については試行錯誤であることが多い。本セミナーでは、先進的な取り組みを実践されている東北大学と立命館アジア太平洋大学における留学生支援の事例について、講師の方々よりお話をうかがい、参加者間での意見交換を行った。

【日時】 平成25年2月1日（金）13：30－16：00

【場所】 佐賀大学本庄キャンパス大学会館2階

【主催】 佐賀大学国際交流推進センター

【共催】 国立大学留学生指導研究協議会

【プログラム】

開会の挨拶・趣旨説明

講演1 森谷 祐一（東北大学工学研究科国際交流室専任准教授）

「東北大学工学部・工学研究科におけるチューター制度の運用」

講演2 大嶋名生（立命館アジア太平洋アカデミック・オフィス・課長）

「学生が学生を育てる仕組みづくり－APU学生による学生サポート事例から－」

全体討論

閉会の挨拶

4. 「佐賀大学友好特使」 制度の制定

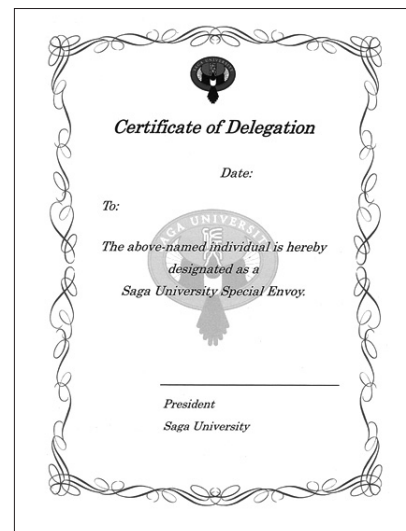
佐賀大学の帰国留学生等を佐賀大学友好特使として委嘱し、友好特使を通じて留学情報、研究情報等を発信・収集し、留学生交流及び国際学术交流を図ることにより、本学の国際化を推進することを目的とし、平成25年2月28日に「佐賀大学友好特使に関する要項」を制定した。友好特使は、国際交流推進センター運営委員会が選考の上、学長が委嘱状を交付する。友好特使には、協力することができる範囲で、次に掲げる役割を担ってもらうこととなった。

- (1) 本学への留学希望者に対する留学情報の提供及び相談対応
- (2) 本学からの留学生等に対する受入支援
- (3) 本学の教育研究等に関する情報の海外への普及
- (4) 海外における教育研究等に関する情報の本学への提供
- (5) 国際共同研究の推進に関する支援
- (6) 帰国留学生等のネットワーク形成に関する支援
- (7) その他本学の国際化推進に関する支援



5. 佐賀大学ハノイ・サテライトの活動

平成21年9月に佐賀大学がハノイ国家大学外国語大学に開設したサテライトオフィスを開設した。平成23年10月に国際交流推進センターが設置されると同時に、本センターがサテライトオフィスの運営を所掌することになった。サテライトオフィスは両大学の学術・研究・教育交流活動を推進することを目的とし、佐賀大学の広報活動、ツイニング・プログラムに関わる業務、佐賀大学卒業生とのネットワーク等の活動を行っている。平成24年度は本学教員のベトナムでの研究・教育活動のサポートや毎年3月に文化教育学部がハノイ国家大学で開催する佐賀大学フォーラムの開催を中心とした業務を行った。



ハノイサテライトオフィスのエントランス



本学教員訪問時

II. 学生交流部門

1. 留学生受け入れ

1.1 佐賀大学の留学生受け入れ態勢の再整備

平成24年度は、高い志を持った優秀な留学生を受け入れる体制の基盤づくりと学術交流協定に基づく学術交流の促進を図るために、主に(1)交換留学生受入プログラムの改革、(2)就職支援の開始、(3)香港中文大学との双方向型短期交流プログラム実施準備を行った。

(1) 交換留学プログラム (SPACE) の改革

佐賀大学では、海外協定校に所属する学生を対象とする短期の受け入れプログラム (Saga University Program for Academic Exchange, 以下 SPACE とする) を平成13年10月に立ち上げ、11年間実施してきた。平成24年末までに受け入れた交換留学生の総数は230名にのぼる。平成23年に申請を行った JASSO 留学生交流支援制度 (短期受け入れ) が不採択であったことを契機に、プログラムを特徴があり、魅力的なものに改善するための全学レベルのワーキングを組織した。ワーキングでは、本プログラムの改革を検討し、以下にあげる改善・発展をめざし平成25年度秋に新 SPACE を開始することとなった。

また、これまで「特別聴講学生一般」という枠組みで受け入れていた日本語能力を備えた学生の受け入れにかかる課題を解決するため、既存の SPACE プログラムと同様にプログラム化することになった。これらの改編により、英語によるプログラムを SPACE-E、日本語によるプログラムを SPACE-J とした。これらの改編にともない、プログラム紹介の冊子をリニューアルし、主要協定校での新 SPACE 広報活動を展開した。主な改善点は以下のとおりである。

- 佐賀大学独自の交換留学生向け奨学金制度

外部資金による奨学金支給が困難な場合、プログラムに参加する学生の出身国が限定されてしまい、SPACE の特徴である多様な国・地域の出身学生が共に学ぶことが不可能となってしまう。そのため、キャンパスの多様性の確保および海外派遣の促進を目的とした交換留学生を対象とした学習奨励費の支給を平成25年度より開始することにした。

- フレキシブルな受け入れ

プログラムのフレキシビリティを高め、協定校の学生にとって参加しやすいものにするため、平成25年4月から、1学期のみの受入も可能とした。

- 理工学部、農学部における「自主研究」の必須科目化

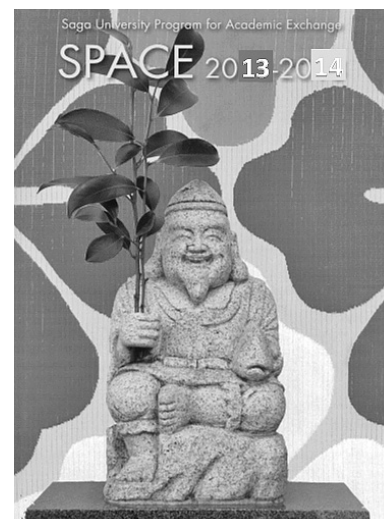
従来、交換留学生は「自主研究」を選択科目として履修していたが、平成25年4月より SPACE-E に参加する理工学部と農学部所属の交換留学生については、「自主研究」を必須科目とした。これにより、理系の交換留学生は、配置された研究室において専門分野の学習や研究を行い、よりきめ細かな指導を受けることができるようになった。

- 教養教育「異文化交流インターフェイス」科目の留学生への提供

平成26年4月から本学の全学教育機構が、学生が専門分野の知識・技術を社会で活かせるようにするための教育として「インターフェイス教養科目」を提供することになった。このうち、「異文化交流」プログラムの科目を、平成26年4月より交換留学生在が履修できるようにすることが確認された。これにより交換留学生在が日本人学生と一緒に学ぶ機会が大幅に増加することになった。

- SPACE-Jのブリッジ・コースの設置

これまで日本語能力試験N2を取得済みの学生であっても専門科目の履修に必要な語学力が備わっていない学生がかなりみられた。そのため日本語運用能力の強化が必要であると判断された学生については、1学期目に日本語科目を一定コマ数履修することとし、専門科目の学習への導入をスムーズにするカリキュラムを編成した。



SPACE プログラム冊子

(2) 留学生の就職支援

経済情勢の変化や留学生の就職ニーズの変容等により、佐賀大学は留学生の就職支援体制を構築する必要がある。特に、日本国内で就職を求める留学生数は増加しており、大学による留学生の就職支援が益々必要となっている。一方、就職が確定しないまま帰国する留学生数の増加が想定されている。「面倒見の良い大学」として留学生の卒業・終了後の進路指導にも目を向けていかななくてはならない。そこで、平成24年度は佐賀大学留学生の就職状況の分析をすると同時に試行的に「留学生キャリア支援講座」を実施した。

- 留学生キャリア支援講座

就職について悩みを抱えている学部3年生や博士前期1年生の留学生だけでなく、学部1、2年生や大学院入学前の留学生も日本での就職に関する基礎知識を修得する必要がある。日本独自の慣習や就職活動の流れ、特に日本型企业へのコンタクト・エントリーシートの書き方・面接方法などを留学生も事前に体得するための就職セミナーを専門家を招いて開催した。

開催日時：平成25年1月25日（金）13時～17時

講師：株式会社ディスコ 学生広報グループ 田口 香織 氏

参加人数：26名

内 容：

1 講目：「日本の社会・企業を知る」

雇用形態や仕事内容・待遇、日本企業に就職するための就活の流れと準備

2 講目：「就職活動の流れ」

情報収集の仕方、エントリーからセミナー参加、入社試験、内定までの確認

3 講目：「就職活動に必要なビジネスマナー」

敬語の使い方、電話、メールなど基本マナー



講師の話熱心に聞く留学生

留学生のためのキャリア支援講座

留学生のみならず、日本独自の慣習や就職活動でこまっていますか？

国際交流推進センターとキャリアセンターは外国人留学生向けのキャリア支援講座（就活編）を開催します！

【開催日時】 2013年1月25日(金) 13:00-17:50

【参加費】 参加無料!!

【申し込み】 申し込み必要

【1講目】 日本の社会・企業を知る

【2講目】 就職活動の流れ

【3講目】 就職活動に必要なビジネスマナー

【開催場所】 佐賀大学本庄キャンパス 農学部本館 農3教室

担当講師：田口香織（たぐちかおり）
 現職：株式会社ディスコ
 ヒューマンリソースカンパニーキャリアアドバイザー
 サーチ コンサルタント（留学生支援担当）
 経歴：大手教育関連企業で大学受験に関するマーケティングに従事した後、株式会社ディスコにて大学へのキャリア支援業務、コンパニオン業務に従事。現在は、企業グローバル人材採用に関する調査や、外国人留学生の就職支援を行う。

参加申し込み＆問い合わせ
 参加申し込みは以下のURLサイトから行って下さい（定員50名）
<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/>
 国際交流推進センター・国際課
 （総合研究棟1F）
 TEL0952-28-8203

（注意）セミナーは日本語のみで行われます。

(3) 香港中文大学との双方向型短期研修プログラム実施準備

平成23年度末に佐賀県出身で駐香港総領事、駐ギリシャ大使を務められた香港中文大学の北村隆則教授より、両大学の学生交流に関する提案をいただき、関係者による協議を重ねた結果、平成24年度から交流を開始することになった。本プログラムは双方向型プログラムで、10名の本学学生が2月から3月にかけての10日間ほど香港中文大学において研修に参加し、そこで交流をした香港中文大学の学生10名が7月に佐賀大学でサマープログラムに参加するというものである。

平成24年の前半に研修プログラムの目的、枠組み、内容、期間、双方の大学の経費負担等について詳細に検討した。両大学は受け入れ学生の研修費用、宿泊費、懇親会費および1名の引率教員の滞在費等を負担するという事で合意をした。初年度である平成24年度は2月に本学学生香港中文大学に8名を派遣した（詳細は20ページ参照）。

交流プログラム実施に関して両大学が合意したことで、平成25年度より香港中文大学の学生を短期間受け入れることが決定し、本学では初めてとなる全学レベルでのサマープログラムの準備と同時並行で行った。

1.2 佐賀大学短期交換留学プログラム実施報告

■コース概要

SPACE-Eは佐賀大学の協定校に所属する学生を対象としたプログラムである。日本語以外の授業は日本語もしくは英語で開講され、日本語や日本社会について学ぶだけでなく、個々の学生の専攻に応じた授業を履修できるユニークなカリキュラムである。プログラムに参加する学生は、佐賀大学での学習や研究を通じて、日本社会や人々について知識や理解を深めることができる。SPACEプログラムは日本語と日本文化を学びながら自分の専門分野から授業を履修することにより交換留学生の目標を達成できるというフレキシブルなカリキュラムである。交換留学生は1学期あたり最低12単位、または1年間24単位を取得することが求められる。条件を満たした学生には修了時に佐賀大学から修了証が授与される。またSPACEの学生には佐賀大学から成績証明書が発行される。所属大学での単位認定は、この成績証明書に基づき、所属大学の評価基準と手続きにより行われる。平成24年度のSPACEプログラム参加者数は43名となった。

■コーディネーター

古賀 弘毅（全学教育機構 准教授） 丹羽 順子（全学教育機構 准教授）

■実施概要

平成24年度春学期

	月	火	水	木	金
I		Japanese-102(全)	Topics for environment System Engineering(理)	Academic Writing in English(経)	
II	Development Economics(経)	Japanese-102(全) Japanese-202(全) Japanese-301(全)	Japanese-102(全)	Japanese-301(全)	Japanese-102(全)
III	Japanese-102(全) Japanese-202(全) Japanese-301(全)	Japanese-202(全) Japanese-301(全)	Japanese-102(全) Japanese-202(全) Japanese-301(全)	Japanese-202(全)	Japanese-202(全) Japanese-301(全)
IV	Field Methods in Linguistics(全)		Field Work on Japanese Affairs II(全)	Introduction to Environmental Chemistry(農)	
V	Creating WEB Pages on Japanese(文)	Production, processing and Constituents of Useful Plants(農)			Japan & Southeast Asia in the Colonial & Post Colonial World(文)

(全)：全学教育機構 (経)：経済学部 (理)：理工学部 (文)：文化教育学部

春学期の視察・見学等

H24年	4月	学外研修（福岡市民防災センター、九州国立博物館、太宰府天満宮）
	5月	日本文化研修（茶道研修）
	6月	鹿島市の高校生との交流会およびホームステイ、鹿島ガタリンピック参加
	7月	学外研修（キリンビール福岡工場・キューピー株式会社）

春学期 入学者（2ヶ国 10大学 16名）

	国籍	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
1	韓国	男	私費	釜慶大学校	1年
2		男	私費		1年
3		女	私費	全南大学校	1年
4		女	私費		1年
5		男	私費	韓国技術教育大学	1年
6		男	私費		1年
7		女	私費	国民大学校	1年
8		女	私費	済州大学	1年
9		男	私費	安東大学	1年
10	中国	女	私費	北京工業大学	1年
11		女	私費		1年
12		女	私費		1年
13		女	私費	遼寧師範大学	1年
14		女	私費		1年
15		男	私費	浙江大学	1年
16		女	私費	浙江理工大学	1年



春学期 修了式



ガタリンピックで競技に参加する留学生

秋学期の授業（2012年10月～2013年3月）

	月	火	水	木	金
I	Japanese-201(全) Japanese-301(全)	Japanese-201(全) Japanese-301(全)	Japanese-201(全) Japanese-301(全)	Japanese-201(全) Japanese-301(全)	Japanese-201(全) Japanese-301(全)
II		Japanese-201(全) Japanese-301(全) Japanese-404(全)	Japanese-403(全)	Japanese-402(全)	Japanese-405(全)
III	Japanese-406(全)	Fundamental theory of Electro-magnetics for Electrical and Electronic Engineering(工)		Japanese-402(全)	Culture and Chemistry(文)
IV	Developing WEB Pages on Japanese(文)	The Constitution of Japan(経)	Field Work on Japanese Affairs I(全)	Microbial Genetics(全)	
V		Field Methods in Linguistics(全)		Introduction to Intelligent Machines(工)	General Topics on Agricultural and Environmental Sciences(農)

(全)：全学教育機構 (経)：経済学部 (農)：農学部 (工)：工学系研究科 (文)：文化教育学部

秋学期の視察・見学等

H24年	11月	学外研修（バルーンフェスティバル）
	11月	スポーツ実習（ソフトバレーボール）
	12月	学外研修（伊万里・焼き物絵付け体験、吉野ヶ里遺跡）
H25年	2月	学外研修（羊羹資料館、酒蔵見学）

秋学期 入学者（4ヶ国 11大学 14名）

	国籍	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
1	中国	女	私費	華東師範大学	1年
2		女	私費		1年
3		女	私費	浙江理工大学	1年
4		女	私費	浙江城市学院	1年
5		女	私費	ハルピン工業大学	1年
6		女	私費	西南政法大学	1年
7	韓国	男	私費	木浦大学校	1年
8		男	私費		半年
9		女	私費	国民大学校	半年
10		女	私費	釜慶大学校	半年
11	ベトナム	女	私費	ベトナム国家大学	1年
12		女	私費		1年
13	台湾	男	私費	国民政治大学	1年
14		男	私費	文藻外語学院	半年



秋学期 入学式



絵付け体験をする留学生たち

1.3 平成24年度日本語・日本文化研修コース

■コース概要

本学の日本語・日本文化研修コースは、研修生が日本語の能力を伸ばすだけでなく、地域のことを学び、広く日本文化や日本語についての知識を学べるようなコースとなっている。

具体的には、教養教育運営機構が提供する学部留学生のために日本語Ⅰ及び日本語Ⅱ、留学生のための開講科目である日本事情を必修科目として受講することに加え、教養教育第一部会（文化と芸術部会）が提供する主題科目を選択必修として、文化教育学部と教養教育機構が提供する他の科目の中で、A)日本語／日本語教育、B)日本文学、C)日本史／日本文化、D)佐賀学に関する科目を受講することになっている。

研修生は、修了に必要な科目を履修するだけでなく、文化教育学部の受け入れ教員の指導のもと、専門に関する研究を深めただけでなく、教養教育機構が提供する日本語コースも受講し、日本語能力も伸長させた。また、チューターやクラスメイトとの交流を通して、日本文化をより理解するとともに、留学生／日本人学生交流プロジェクトにも積極的に参加して、日本人学生とグループで調査／発表プロジェクトに取り組んだ。それにより、日本語によるプレゼンテーション能力や問題解決能力、グループで作業する能力などを伸ばした。

■開講期間

平成23年10月～平成24年8月

平成24年10月～平成25年8月

■コーディネーター

中山 亜紀子 准教授（全学教育機構）

■日本語・日本文化研修生

平成23年10月～平成24年8月

国名	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
ベトナム	女	国費	ベトナム国家大学ハノイ校	1年

平成24年10月～平成25年8月

国名	性別	奨学金区分	大学名	在学期間
リトアニア	女	国費	ヴィリニウス大学	1年



平成23年度修了式にてベトナム人修了生



入学式でスピーチをするリトアニア人研修生

1.4 平成24年度日本語研修コース

■コース概要

日本語研修コースは佐賀大学における留学生の学部又は大学院入学前予備教育としての日本語教育を実施するもので、原則として国費外国人留学生が参加する。参加学生は全学教育機構が開設する日本語授業科目から、定められた授業科目を受講しなければならない。平成24年度は2名の国費留学生が日本語研修コースに参加した。

■コーディネーター

吉川 達 講師（全学教育機構）

■日本語研修コース参加学生

平成23年10月～平成24年 8 月

国名	性別	所属研究科
バングラデシュ	男	農学研究科

平成24年10月～平成25年 8 月

国名	性別	所属研究科
中国	女	教育学研究科

2. 学生の海外派遣

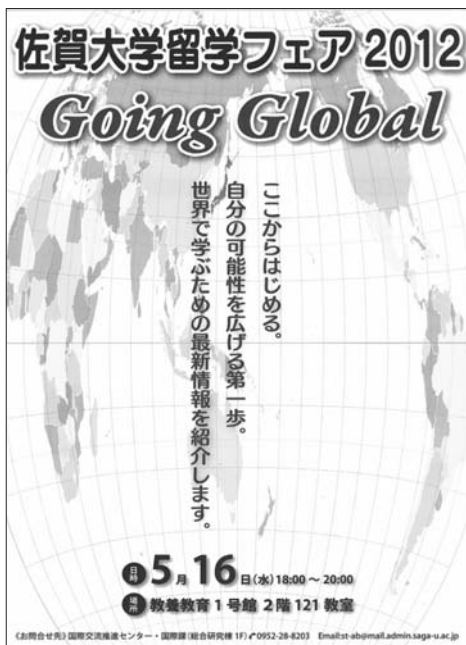
2.1 交換留学生の派遣

佐賀大学が学術交流協定に基づく派遣交換留学を全学的な取り組みとして開始したのが平成23年度の派遣学生からであった。そのため、平成24年度は派遣交換留学制度の見直しを行い、派遣中の身分、選考方法や審査基準を全学的に定め、学生への周知を徹底した。また、海外留学の機会について広く学生に理解してもらうため、情報を効果的に提供する工夫を行った。平成24年度は、海外留学フェア（5月）、ミニ留学トーク（前期の隔週1回）、帰国学生による留学成果報告会（10月）の開催や、担当教員による個別留学アドバイジング、留学準備のための語学学習教材の貸し出しなどの留学支援の充実をはかった。さらに、学生の海外志向を大学入学早期に引き出すために、本学学生のための『佐賀大学生のための海外留学ガイド』を発行し、平成25年度に入学する新入生および学部2年生全員に配布した。



留学フェアの様子

平成24年度に本学から海外協定校に交換留学生として派遣された学生数は、平成23年度の11名から21名に倍増した。特にアジア諸国への留学希望者の増大（韓国5名、中国5名、スリランカ2名、ベトナム1名）が顕著な変化として指摘できる。



海外留学ガイド2013

平成24年度 派遣交換留学生 (21名)

派遣国	派遣先大学	氏名	所属	派遣時 学年	派遣期間	奨学金
スリランカ	ペラデニア大学	日下部桃子	経済学部	4	平成24年4月～ 平成25年3月	JASSO
		田中 涼子	経済学部	3	平成24年4月～ 平成25年3月	後援会
韓国	釜山大学校	徳吉 麻子	経済学部	3	平成24年9月～ 平成25年12月	後援会
	全南大学校	塩谷 杏奈	文化教育学部	3	平成25年3月～ 平成26年2月	後援会 校友会
		永田さつき	文化教育学部	2	平成25年3月～ 平成26年2月	後援会
	国民大学校	中村 佳代	文化教育学部	2	平成25年3月～6月	後援会
渡邊 知沙		経済学部	2	平成25年3月～12月	後援会 校友会	
中国	北京工業大学	新野 公介	理工学部	3	平成24年4月～ 平成25年3月	校友会
		酒谷 佳絵	文化教育学部	2	平成24年9月～ 平成25年7月	後援会 校友会
		瀧本麻里江	経済学部	2	平成25年2月～ 平成26年1月	後援会
		多久島千尋	文化教育学部	2	平成24年9月～ 平成25年7月	校友会
華東師範大学	吉田 奈央	文化教育学部	2	平成25年2月～12月	後援会	
アメリカ	スリッパリーロック大学	幸田 美咲	教育学研究科	M1	平成24年8月～ 平成25年5月	JASSO
		江頭 隆介	文化教育学部	3	平成24年8月～ 平成25年5月	JASSO
	パシフィック大学	宮崎 理沙	文化教育学部	3	平成24年8月～ 平成25年5月	校友会
フランス	オルレアン大学	中尾 知生	文化教育学部	2	平成24年9月～ 平成25年6月	後援会 国際化支援
		脇屋 友美	文化教育学部	2	平成24年9月～ 平成25年6月	校友会
	ブルゴーニュ大学	山崎 和奏	文化教育学部	2	平成24年9月～ 平成25年6月	後援会 校友会
オーストラリア	シドニー工科大学	平岡 範之	文化教育学部	2	平成25年2月～11月	後援会
		永田 敦子	文化教育学部	2	平成25年2月～11月	後援会 校友会
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	渡邊 駿弥	文化教育学部	2	平成25年10月～ 平成26年3月	後援会 国際化支援

JASSO：日本学生支援機構より返還不要の奨学金を月額8万円 後援会：佐賀大学後援会より一時金10万円 校友会：佐賀大学校友会より一時金5万円

2.2 短期 派遣プログラムの開発・調査・派遣

長期留学は留年の可能性や就職活動との時期が重なること、また経済的な負担が大きいことなどから躊躇する学生が非常に多い。しかし一方で、異文化に関心を持ち、留学をしたいと考えている学生も多い。そのようなことから、平成24年度は学生の海外志向を引き出すためのプログラム開発を精力的に行った。多様な海外学習の機会をより多く提供するための短期派遣プログラムの拡充を行った。平成24年度は国際交流センターが留学生センターから引き継いだ2つのプログラムの評価を行い、新たにシドニー工科大学（3週間）、モナシュ大学（4週間）、オークランド大学（3週間）、香港中文大学（10日間）との協力のもとプログラムを立ち上げた。特筆すべきは、香港中文大学との学生交流プログラムの立ち上げである。香港中文大学人文学部日本研究学科と本学とが2月と7月にそれぞれ学生を受け入れ、同じ学生が二つの交流プログラムに参加するものである。2大学はプログラム内容の企画・準備・実施・経費負担を協力・連携して実施するプログラムとなった。

さらに、学生の経済的負担を軽減し、多くの留学希望者が参加できるようにするため支援事業を制度化した。これにより国際交流推進センターが実施する短期研修プログラムに参加する学生のうち人物および学業成績が優秀なものに対し、最大10万円の奨学金を支給することになった。

プログラム拡充と奨学金制度の開始により、平成24年度に国際交流推進センターが実施した4つの短期派遣プログラムで海外に派遣された学生は46名となった（平成23年度12名）。以下に各プログラムの報告をする。

1) パシフィック大学プログラム

【実施期間】 平成24年 8月24日～9月22日（4週間）

【参加学生】 10名

【担当教員】 コールマン・サウス 准教授（全学教育機構）

【概要】

4週間のプログラムで、教室の英語学習は週12時間、日本人が苦手とするオーラルスキルを中心に取り組み、日常会話だけでなく、ディスカッションやプレゼンテーションスキルの向上も目指すプログラムとなっている。毎週火曜日と木曜日はパシフィック大学により計画されたフィールドトリップに参加し、アメリカ北西部の自然や社会、特有の文化について学ぶ。現地では一般家庭にホームステイすることにより、アメリカの生活を体感した。

氏名	学部	学年
平岡 範之	文化教育学部	3
岩永 芳菜		3
吉田 大介		3
野崎昌太郎	理工学部	1
西島 孟志		3
尾倉 舞子		3
小西 令子	農学部	2
山本 昌樹		2
尾方 茉衣		2
有角 拓也		2

2) シドニー工科大学プログラム

【実施期間】 平成24年 8月25日～9月16日（3週間）

【参加学生】 3名

【担当教員】 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

【概要】

本プログラムはシドニー工科大学が日本の協定大学の学生（99名）を対象として実施しているもので、本学からは3名の学生を派遣した。シドニー工科大学との学術交流協定締結直後の派遣であったが、協定に基づく授業料不徴収の恩恵を受けてプログラムに参加することができた。オーストラリアの言語、社会、文化、歴史などを学びながら、英語圏の留学に必要なスキルや知識を身につけることを目的としたプログラムで、シドニー工科大学学生との交流、一般授業の聴講なども行った。3週間のホームステイ体験に加え、毎週金曜日には現地学生とともにフィールドトリップに参加など、教室の中だけでなく現地の人々との交流を通じてオーストラリア社会を学ぶことができた。本プログラムに参加した学生3名のうち、この後、1名がカナダの協定校への交換留学を実現した。

氏名	学部	学年
吉川 伸也	工学系研究科	2
副島奈央子	文化教育学部	3
阿萬 由紀	理工学部	2



オリエンテーション



UTSの一般授業に参加

3) モナシュ大学プログラム

【実施期間】 平成25年 2月22日～3月17日（3週間）

【参加学生】 11名

【担当教員】 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

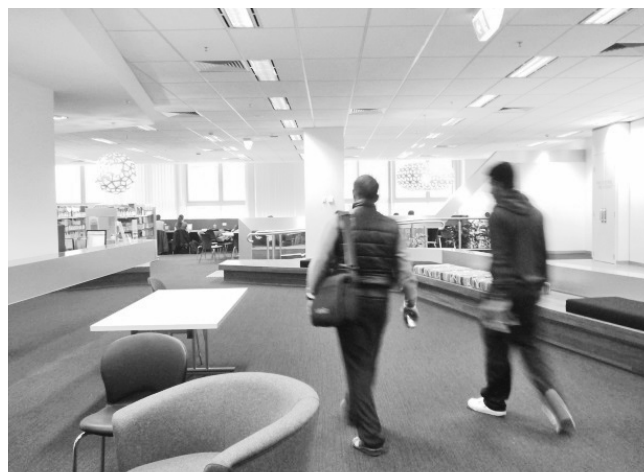
【概要】

英語圏に必要となる高い英語の運用能力や学術スキルを身につけることを目的としたプログラムを新たに立ち上げた。モナシュ大学への正規留学を目指す海外からの学生とともに、3週間のアカデミックイングリッシュプログラムに参加した。その後、教室で学び、身につけた英語力を実践的に使いながら、オーストラリアにおけるエコツーリズムについて学んだ。エコツーリズムの学習では、国立公園を訪問し自然保護官による講義を受け、最終日には野生保護活動にも参加した。モナシュ大学のプログラムは日本の大学から高い評価を受けており、多くの大学が同じ時期に学生を派遣するため、教室内の日本人の割合が非常に高くなってしまっているということがある。また、オーストラリアの物価高による学生の経済的負担は、本学から奨学金10万円を支給しても大きいことなども指摘できる。

氏名	学部	学年
前兼久千尋	農学研究科	M1
野中 一典	農学部	3
吉田 一喜		1
江越 正敏	医学部	2
中村 侑香		2
田中 里佳		1
都築 奈美	農学部	2
城野 愛巳		1
松田 正弘	経済学部	2
船越友紀恵		2
岡本 依子		1



生活や施設利用に関する説明を受ける



モナシュ大学シティキャンパスのラウンジ

4) オークランド大学プログラム

【実施期間】 平成25年 2月22日～3月17日（3週間）

【参加学生】 14名

【担当教員】 藤田 清士 教授（国際交流推進センター）

【概要】

2週間の英語集中授業を受講し、最終週は「ニュージーランドの人々と社会」というテーマで学習した。参加学生は2月25日の研修開始の初日にプレースメントテストを行い、習熟度別のクラスに配属された。14名の佐大生は全員が中級の最上位クラスから下位クラスに分属された。2月～3月にかけてのプログラムであるため、現地で日本人学生が過半数を占める点が課題として残った。またプログラムではオークランド市内の高校訪問や、オークランド大学の学生への聞き取り調査をするなど、より深く現地社会を理解する機会に恵まれた。現地ではすべての参加者が一般家庭にホームステイした。プログラム開始当初は様々な家庭形態があることに戸惑いを見せるものもいたが、徐々にニュージーランドの家庭生活に慣れ現地の生活を体感した。

氏名	学部	学年
田島麻理恵	農学部	4
椎葉 耀生		2
松永 陽香		2
横田 琴美	文化教育学部	2
田中 佑香		2
長崎 瑠子		2
古賀 知子		2
中村 有沙		1
松木 彩香		1
尾崎 友紀	経済学部	3
高木 梨帆		2
松木 悠莉		1
力武 千昌	医学部	1
内山 未有	理工学部	2



出発直前 福岡空港にて



授業の様子

5) 香港中文大学学生交流プログラム

【実施期間】 平成25年 2月24日～3月5日（10日間）

【参加学生】 8名

【担当教員】 吉川 達 講師（全学教育機構）

【概要】

平成23年に佐賀県出身の元香港総領事、北村隆則氏（現在香港中文大学教授）からの提案を受け、両大学関係者が協議を重ねた結果、双方向型の学生交流派遣・受け入れプログラムの実施が可能となった。第一回目となった平成24年度のプログラムには文化教育学部、経済学部、理工学部所属の1年生から3年生が参加し、海外未経験の学生も含まれていた（別添表を参照）。本プログラムの目的は、海外初心者に海外に出るきっかけを与えることとしており、香港中文大学の授業聴講や視察・見学、自主課題を行うなど、すべての活動を香港中文大学生とともに参加し、交流を深めながら様々なことを学ぶことができた。また香港中文大学教職員、佐賀県人会など多くの方々に暖かに迎えられ、海外への初渡航であった学生にとっても大きな自信を得る体験となった。

氏名	学部	学年
久保 明美	理工学部	3
毛 雨蒙	経済学部	3
木下 歩美		2
加茂 啓成	文化教育学部	3
藤川 愛		2
趙 光熙		2
黒木 真紀		2
原 千恵子		1



現地学生との交流



香港中文大学のキャンパスにて

2.3 学生の海外派遣支援事業（国際化支援制度）

佐賀大学は国際戦略構想の一つとして、学生の海外志向を引き出す国際教育プログラムの展開を掲げている。より多くの学生が経済的な負担を抱えることなく、海外で学ぶ機会を得ることは重要であるとの考え方から、平成24年度より国際化支援経費を活用し、本学から海外へ学習や研究のために派遣される学生の大規模な経済的支援を開始した3つの支援事業を立ち上げた。それらは(1)国際交流推進センターが実施する短期海外研修に参加する学生に対する上限10万円の奨学金「佐賀大学学生海外語学研修参加助成」、(2)各学部・研究科が専門分野に特化した海外研修支援として、採択されたプログラムに参加するに対し5万円の奨学金を支給する「佐賀大学学生海外研修支援事業」、最後に(3)学生個人が留学計画を立てて渡航する学生に対する奨学金として選抜された学生に対して一人あたり5万円を支給する「佐賀大学学生海外派遣奨励費」である。これら3つの支援事業により、平成24年度は合計115人の学生が支援を受けて海外に留学した。支援額総額は412万円となった。

(1) 平成24年度 佐賀大学学生海外語学研修参加助成

国際交流推進センターが企画・実施する短期の海外研修プログラムに参加する学生に対する奨学金として、一人最大10万円を受給できるものである。参加助成の審査は研修プログラムへの参加の選抜審査と同時に行われ、プログラム参加を希望する動機や佐賀大学での学業への位置づけについて述べるエッセイ、学生成績（GPA）、複数教員による面接審査によって評価される。平成24年度は多くの応募者の中から、4プログラムに参加する38名に対して337万円の助成金が支給された。各プログラムの概要については、本書17～20ページを参照。

	派遣先	派遣人数	期間	プログラム名	一人当たりの助成額	助成額
1	アメリカ合衆国 オレゴン州 パシフィック大学	10	平成24年8月24日～ 平成24年9月23日	パシフィック大学語学研修・ ホームステイプログラム	100,000円	1,000,000円
2	オーストラリア シドニー市 シドニー工科大学	3	平成24年8月25日～ 平成24年9月16日	シドニー工科大学短期研修	50,000円	150,000円
3	オーストラリア メルボルン市 モナシュ大学	11	平成25年2月16日～ 平成25年3月17日	モナシュ大学プログラム	100,000円	1,100,000円
4	ニュージーランド オークランド市 オークランド大学	14	平成25年2月16日～ 平成25年3月17日	オークランド大学プログラム	80,000円	1,120,000円
					合計	3,370,000円

(2) 平成24年度佐賀大学学生海外研修支援事業申請（申請9件中9件採択）

本支援事業は各学部・研究科が実施する専門分野に特化した特色あるプログラムで、優れた教育的効果が見込まれるプログラムを採択し、そのプログラムに参加する学生に1人あたり5万円の奨学金を支給するものである。平成24年度は9件の応募すべてが採択され、69名が支援を受けた。

No.	プログラム名	申請者所属	交流大学・機関名 派遣国	研修期間	派遣人数	支援額
1	日本語教育海外実習	横溝紳一郎 教授 全学教育機構	文藻外語学院 日本語学科 中華人民共和国	H24. 9 (10日間)	5	250,000円
2	アジアフィールドワーク アジア諸国の開発と環境問題、 国際協力を考えるスタディーツアー	稲岡 司 教授 農学部	韓国農林水産大学・韓国農林水産 振興庁、忠北大学、済州大学 ミャンマー政府国境省、バオ族自治 組織、タウンジー大学、認定 NPO 法人地球市民の会 JICA ミャンマーオフィス、ラオ ス国立杭州衛生研究所 韓国 ミャンマー・ラオス	H24. 8～9 (7日間) (11日間)	7	350,000円
3	International Partnership Education Program Between Liaoning University and Saga University	大渡 啓介 教授 工学系研究科	遼寧大学、化学院 中華人民共和国	H24. 9 (4日間)	3	150,000円
4	STEPs(理工学部優秀学生有志の会) 上海・杭州研修 —浙江理工大学学生との学生交流—	Khan Md. Tawhidul Islam 准教授 工学系研究科	浙江理工大学 中華人民共和国	H24. 9 (5日間)	12	600,000円
5	ベトナム国家大学ハノイとの 連携による先端融合工学教育・研究 プログラム	渡 孝則 教授 工学系研究科	ベトナム国家大学ハノイ（自然 科学大学、工科大学）、ベトナム 企業（IMI Holding, FORTICA Co.） ベトナム	H24. 9 (5日間)	6	300,000円
6	「第8回低平地に関する国際会議」 における発表・討議及び 国際的学術研究コミュニケーション 能力の養成と実践	荒木 宏之 教授 低平地沿岸地域研究センター	ハサヌディン大学、カセサート大 学、アジア工科大学 インドネシア、タイ	H24. 9 (3日間)	10	500,000円
7	「ドイツ語とドイツ文化」研修旅行	吉中 幸平 教授 文化教育学部	ミュンヘン大学、バイエルン州 アメラング村 ドイツ	H25. 2～3 (1ヶ月)	14	700,000円
8	「フランス語とフランス文化・ 生活体験」実習	相原 征代 講師 文化教育学部	トゥールーズ第二(ミライユ)大学 フランス	H25. 2～3 (14日間)	7	350,000円
9	2012年度 第3回ベトナム海外研修セミナー	田中 豊治 教授 文化教育学部	ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学 ベトナム	H25. 2～3 (6日間)	5	250,000円
				合計	69	3,450,000円

【採択プログラムの成果報告】

1. 横溝紳一郎 教授（全学教育機構）「日本語教育海外実習」

文化教育学部日本語教師養成課程の総仕上げの位置づけの科目である「日本語教育実習」では4月から7月まで授業観察、教科書分析、教案作成、日本語授業の見学、そして本学の留学生を対象にした教壇実習を行っている。その上で実施される本プログラム「海外日本語教育実習」は、海外での日本語教育の体験を提供するものであり、佐賀大学の国際化促進に貢献するプログラムである。今年度の海外日本語教育実習期間中も様々な交流が組み込まれていた。このことにより、実習生には現地の文化・社会を学習する機会と、学生同士で交流する機会が豊富に提供されていたと思われる。

2. 稲岡 司 教授（農学部）「アジアフィールドワーク～アジア諸国の開発と環境問題、国際協力を考えるスタディーツアー」

今回、海外渡航自体が初めての学生が多数いたが、いずれの学生も当初の不安を払しょくして自信を深めて帰国し機会があれば再訪したいという意識が芽生えたことが第1の特筆すべき成果である。また、隣国ではあるが人々の考え方や文化が異なることを身を以て経験できたという多くの学生の感想を得られたことが第2の特筆すべき成果である。最後に、著しいグローバル化の進展下にある東アジアの先進国でありながら日韓では農業の位置づけ、農政の方向に大きく違いがあることを知り、相対化された視点から我が国の農業・農政を捉え直す必要があるということを学生が学んだ点が第3の特筆すべき成果である。

3. 大渡 啓介 教授（工学系研究科）「International Partnership Program at Liaoning University」

学術交流協定校とのパートナーシッププログラムを通して、本学の学生に、先端材料科学の分野で活躍する優秀な海外研究者の研究発表を聞かせ、また英語で自らの研究内容をポスターにより発表する機会を与え、研究に対する意識を鼓舞すること、さらに、学術交流協定校の学生との交流を活性化することによって、国際化の意識を持たせ、促進することを目的としてきたが、こちらの予想よりもエンカレッジされており引率代表者として非常に高い達成感を感じている。また、指導教員についても国際交流の意識を活性化し、国際パートナーシッププログラムを始めとする国際的な本学のプログラムを先導する人材を促進することを目的としたが、シンポジウムの翌日は遼寧大学・大学院の修士学生を相手に、パワーポイントを使って佐賀大学大学院工学系研究科循環物質科学専攻と先端融合工学専攻（化学系）の紹介をし、いくつかの質問を受けた。以前、佐賀大学でおこなった国際パートナーシッププログラムによって遼寧大学から博士課程の入学者がおり、今回も学生獲得にたいして貢献できればと考えている。

4. Khan Md.Tawhidul Islam 准教授（工学系研究科）「STEPs（理工学部優秀学生有志の会）上海・杭州研修—浙江理工大学学生との学生交流—」

海外の学術協定校である浙江理工大学の学生と佐賀大学の学生（STEPsメンバー）の交流を目的とした。本交流は双方の学生間で事前の打ち合わせをメールでできる環境を提供し、学生の主体的な研修計画の事前立案を行い、学術及び文化的な多くのコミュニケーションが実現できた。なお、英会話の事前研修により英語能力の向上に寄与できた。また、今回の研修では「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」のメンバー企業の経営者数名五日間のうち三日間同じ工程で行動したことにより、学生たちの佐賀県内の企業に関する理解が深まった本プログラムでは、世界的視野と文化をベースとした柔軟な発想を持ったリーダーシップを発揮できる学生の育成に

務め、その端緒が形成できたと評価する。

5. 渡 孝則 教授（工学系研究科）「ベトナム国家大学ハノイ校（自然科学大学・工科大学）との連携による先端融合工学教育・研究プログラム」

学生自身がハノイ市の活気に接し、またベトナム国家大学（自然科学大学、工科大学）の教員及び学生との交流により、グローバル化の重要性を認識した。交流大学の教授4名による英語の講義を学生が受講すること、および両大学の高い英語力により、自身の語学力の低さ、コミュニケーションの重要性が認識された。ただ滞在時における英語によるコミュニケーションにより少し自信ができたようである。

6. 荒木 宏之 教授（低平地沿岸海域研究センター）「第8回低平地に関する国際会議における発表・討議及び国際的学術研究コミュニケーション能力の養成と実践」

参加した学生は個々の能力に応じて目的の達成レベルに違いを余儀なくされるものの、少なくとも英語での論文発表・質疑応答を体験するとともに、発表セッション以外での種々の活動を通じることで国際的視野における自身の研究の位置づけを確認でき、学術的、国際的な指摘を大いに受けたことがうかがえる。以上の内容に加え、計画通りの危機管理体制を背景に無事故で本プログラムを遂行できたことにも鑑み、目標達成度は100%といえる。

7. 吉中 幸平 教授（文化教育学部）「ドイツ語とドイツ文化 研修旅行」

多くの成果が挙げられるが、まずは学生たちが母国話者教師陣によるミュンヘン大学のドイツ語講習に参加することで、外国語学習への意識を新たにしたことである。一方では拙いドイツ語でもコミュニケーションできることで自信と喜びを得、他方では細かなニュアンスを伝えられない悔しさにさらなる勉強意欲を得た、という点である。次には学生たちがこの研修に参加することで、万事において積極的な態度を身に着けたことである。彼らは自分の専門分野だけでなく、広く世界や日本の問題と取り組む意思を表明しており、そのことは今後の就職活動にも大きな力となることが期待される。さらには学生たちが、半年以上の準備期間と一月の現地研修期間を通して、研修仲間やホームステイ家族をはじめ多くの人々と交流関係を結び、今後彼らの人生の糧とすることができたことであろう。

8. 相原 征代 講師（文化教育学部）「フランス語とフランス文化・生活体験実習」

参加学生の海外留学への意識が高まったことは特記すべき事項である。フランス語があまりできない状態で今回の実習に参加したものがほとんどであり、本格的なフランス留学を控えて今までのフランス語の勉強の仕方を見直したこと、改めて自分のフランス語力を知りフランス留学を不安に思う反面、前もってフランスの実態を知ることができてよかったということ、海外と比較して日本の治安の良さを改めて感じたこと、言葉だけでなくポディーランゲージなどでも伝わることもあるということを知ったことなどが報告されている。

9. 田中 豊治 教授（文化教育学部）「2012年度第3回 ベトナム海外研修セミナー」

グローバル化がますます進展する現代社会において、学生の異文化交流体験による国際感覚の醸成は必要不可

欠な教育課題である。本「アジア社会論」の授業では、最初から海外教育実践授業として、ベトナムに引率することをシラバスに記載し、オリエンテーションで説明した。その結果、セミナーへの応募者は13名であったが、5名に限定した。ニーズが高いことが判明した。帰国後、この中から1名がオーストラリアへのワーホリ留学を決意したと聞いている。

(3) 平成24年度佐賀大学学生海外派遣奨励費申請（申請9件中採択8件）

本奨励費は、留学を独自に計画し、留学を実現する学生への支援を目的として制度化されたものである。しかし、応募者の多くが交換留学予定者であった。学生が私費留学を計画する場合、準備に要する時間やコストの負担も大きく、非常に難しいことがわかった。9名の応募者の中から審査により8名が採択となり、一人5万円の奨励費を受給し留学を実現した。

No.	申請者 所属	学年	指導教員	留学予定先	留学期間
1	渡邊 駿弥 文化教育学部	2	田中 豊治	ベトナム ベトナム国家大学ハノイ外国語大学	9ヶ月
2	赤島 愉 経済学部	4	ラタナーヤカ・ピヤダーサ	アメリカ パシフィック大学	11ヶ月
3	松田 夏希 工学系研究科	M1	成田 貴行	英国 グリンドゥア大学	3ヶ月
4	中尾 知生 文化教育学部	3	古賀 豊	フランス オルレアン大学	10ヶ月
5	塩谷 杏奈 文化教育学部	4	白石 良夫	韓国 全南大学校	11ヶ月
6	瀧本麻里江 経済学部	3	ラタナーヤカ・ピヤダーサ	中国 北京工業大学	11ヶ月
7	中村 佳代 文化教育学部	2	永島 広紀	韓国 国民大学校	4ヶ月
8	吉田 奈央 文化教育学部	3	中尾友香梨	中国 華東師範大学	10ヶ月

【受給者の留学成果報告】

1. 渡邊 俊弥（文化教育学部）ベトナム国家大学ハノイ外国語大学

平成25年10月より佐賀大学からの正式な交換留学生としてハノイ国家大学外国語大学に派遣された。授業については基本的に日本語学科の授業にTAとして参加し、学生に現代の日本の問題（孤食、社会福祉など）など教科書に載って異なることを毎回プレゼンテーションした。今回、留学生として参加しましたが、単位の為に大学へ授業を受けに行った毎日、というよりもむしろ自分のベトナム語の習熟と帰国後に待ち受ける就職活動に役立つ経験を自分で作り出すことに尽力し、ベトナムと日本の現実を感じ取ることができた。これからベトナムと日本をつなぐ架け橋になることは、帰国後、私に課せられた義務だと思っている。

2. 赤島 愉 (経済学部) パシフィック大学

English Language Instituteとして主にGrammar、Speaking、Readingを中心にネイティブの教員に英語を教えてもらった。春学期より、受講3クラスがAdvancedへグレードアップした。帰国直前に受けたTOEFLのスコアは当初受けたものよりもかなりアップした。

3. 松田 夏希 (工学系研究科) グリンデュア大学

イギリスのグリンデュア大学に研究留学のため3か月滞在した。研究室には中国やポーランド、スペインなどさまざまな国から勉強に来ている人がいてとても活気があった。9月18日に開催された27th Young Scientist Symposiaに参加し海外の他大学の人たちの発表を見学し、とても勉強になった。これまで使用経験のない装置を使い、レオロジーを専門にしている先生の指導の下で実験することができとても有意義な3か月であった。

4. 中尾 知生 (文化教育学部) オルレアン大学

特にフランス語能力が向上した。比較的簡単な授業内容だがフランス語での授業は一定以上のフランス語能力を要求される。さらに長期の休日の前後はテストが1授業につき2、3回あるためかなり身についた。しかし交換留学生の中の日本人が占める割合がかなり高く、さらにオルレアン大学には日本学科があるため、大学内では日本語があふれている環境である。個人での努力が大きく周りとの差が開くと思われる。

5. 塩谷 杏奈 (文化教育学部) 全南大学校

韓国の専攻科目の授業をとることによって、日本の大学で学んでいた日本語学、日本語を韓国でどのように教えられているかを知ることができた。また、授業内で発表を行うことにより、専門用語、学問で使用される文法等、高度な韓国語を使用できたこと、発表の形態、人前で長い時間、発表することに抵抗を感じなくなったこと、より深い日本語を勉強できた。またサークル活動、日本語の授業や日本語を勉強する韓国人の学生との交流で日本語のどの文法が韓国人にとって誤用を起こすのかを詳しく知ることができたこと、日本語と韓国語の表現の際から日本語教師としての自覚、日本語学の勉強の必要性をより一層強く感じた。そして言語教育院での授業、韓国語の授業を通して、韓国語をよりいい環境で勉強でき、韓国語能力の上昇ができました。そしてほかの国からの留学生と交流することで、考え方が感化され、価値観が変わり、より広い視野で物事を見ることができました。この交換留学を志望し、実際留学をしたことにより、日本では経験できない多くのことを得ることができた。

6. 瀧本麻里江 (経済学部) 北京工業大学

中国語の授業を通じ、日常生活を通じ、中国語を学ぶことができた。またさまざまな国の学生と交流することができた。特に今まで関わったことのなかった中東やアフリカの人々と交流し、自分の中でイメージが変わったと考える。日々の生活の中での違いや特徴について、思考を巡らして自分の考えを持つことができた。クラスメイトが全員欧米人という中で講義を受け、意見し合った経験は貴重なものであると考える。授業の中で中国の文化やビジネスについて学ぶだけでなく、彼らが中国やアジアをどのように見ているのかも知ることができた。また自分も彼らと同様、授業の中で自分の意見を言うことで、自分の知識や考えを深めることができた。

7. 中村 佳代 (文化教育学部) 国民大学校

初めは授業で先生が話していることを聞き取るのにも必死な状況で、聞き返すことも多かったが、かなり聞き取れるようになった。国民大学校には日本人留学生と交流するグループがあり、そのグループにいて毎日、韓国人の学生とのふれあい、連絡も韓国語でできるようになっていった。会話はまだまだ難しい状況だが韓国人の学生からも最初より上手になったと言ってもらえ、これからの学校生活が楽しみである。

8. 吉田 奈央 (文化教育学部) 華東師範大学

上海の生活習慣にも慣れ、現在は一人での行動も問題なく行えるようになった。日常会話は現地の人の話す速さについていけない場合や、上海語で理解できない場合もあるが、クラスメイトと話す場合は基本的に支障なく話すことができるようになった。中国語の授業では、日本を紹介するPPTを作り中国語で発表した。また、授業中には会話をする機会が多いので会話をすることに少しずつ慣れた。しかしまだ知らない単語も多く、会話に困ることがあるのでさらに努力をする必要がある。相手の言っていることを理解することができても、自分の伝えたいことを伝えられないことが多々あるので、自分の意見を自分なりにまとめて伝えられるようにしなければならない。さらに、日本のことを尋ねられた場合に回答に困るときがあるので日本のことについてもきちんと答えられるように勉強し直す必要があると感じた。

2.4 海外研修における危機管理体制概要

平成24年度より本格的に学生の海外派遣を推進する取り組みを開始した。それにより、本学のプログラムで海外に派遣される学生数が急速に増加している。交換留学で学生を派遣したり、海外でプログラムを実施する際に問題となるのが、危機管理であり、その整備が急務となった。本学では、まず国際交流推進センターが実施する海外研修プログラム、および学術協定に基づく派遣交換留学制度に対して、以下の危機管理体制を整備した。

(1) 緊急連絡網の整備

- ・“研修に関わる緊急時連絡網”を全学に周知
- ・各部局事務が緊急連絡網を管理・運営

(2) 緊急カードの配布

- ・現地で危機に遭遇した際に必要な緊急カードを国際課及び各部局事務より学生に配布

(3) 危機管理チェックリストの配布

- ・渡航前及び渡航中に学生が注意すべき内容の目安をチェックリストにして学生に配布

(4) 誓約書・旅程表の提出

- ・誓約書に学生及び保護者がサイン・押印し、原本を各部局事務が、コピーを国際課が保管
- ・研修中の個人的な行動に対する自己責任の明確化と大学の免責を確認
- ・担当教員・部局事務・国際課が旅行社より旅程表を入手し、保管・管理

(5) メディカルレポートの提出

- ・既往症や持病等について申告し、本学および受け入れ機関が適切かつ迅速に対応を行えるようにする

(6) 緊急連絡の手段

- ・各学生が個人携帯を所持。所持のない場合ホームステイ先や研修先へ連絡手段確保
- ・各研修コースの担当教員が緊急連絡用携帯を常時所持

(7) 海外旅行・海外留学保険への加入

- ・個人保険へ加入推奨（義務付け）
- ・大学側が保険（保護者費用・救援者費用・訴訟対策費用）に加入

(8) 現地への視察

- ・研修担当教員がそれぞれ、研修期間中に視察し問題回避・対処を行う

(9) 現地大学の支援

- ・現地の大学へ緊急時の支援依頼

(10) その他

- ・学生に対する危機管理教育を研修出発前に行い、留学する学生は参加が義務づけられる

Emergency Telephone Numbers	
警察	救急車・消防車
Police	Ambulance/Fire Engine
留学生担当オフィス	担当者名 (Rep.)
Int'l Student Office	
所属学部・研究科	担当者名 (Rep.)
Student Office of School	
大使館・総領事館	
Embassy/Consulate General of Japan	
日本での緊急連絡先	+81-
Emergency Number in Japan	
佐賀大学・国際交流推進センター・国際課	Home University
Tel: +81-952-28-8169	Saga University, Japan
Email: st-ab@mail.admin.saga-u.ac.jp	

Emergency Personal Card	
氏名	性別
Name	Sex
生年月日	血液型
Date of Birth	Blood Type
パスポート番号	国籍
Passport Number	Nationality
大学名	学籍番号
Name of University	Student ID
所属学部・研究科	
Name of School	
現地住所	
Current Address	
日本連絡先	保護人
Home Tel	Guardian's Name

学生が留学中に携帯する緊急カード

3. キャンパスの国際化

3.1 留学生・日本人学生交流プレゼンテーションプロジェクト

本プロジェクトは、平成23年度より当時の留学生センターの取り組みとして開始したものがはじまりである。国際交流推進センターは、全学教育機構と協力して、このプロジェクトを継続させている。平成24年度も後期に留学生・日本人学生交流プレゼンテーションプロジェクトを実施した。本プロジェクトは、国際的な人材を育成することを目的として作られたものである。留学生と日本人が一つの課題に取り組むことによって、一過性ではない関係を作り、大小の葛藤を乗り越え、何かを作り上げる体験をすることをねらいとして行われている。

平成24年度のテーマは「佐賀の魅力を探しましょう」である。9月下旬から参加者の募集を始め、第1回のミーティングまでに、日本人学生4名と留学生10名、合計14名の参加者が集まった。参加者は4つのグループに分かれ、それぞれのグループが選んだ「小城羊羹」「佐賀の職人」「A bite of Saga-佐賀丸かじり」「佐賀の秋見つけた!」のテーマのもと、調査を開始した。調査中は、ミーティングの時間を設定し、担当教員が学生たちの相談にのるとともに、適宜中間発表会などを行い、お互いに刺激を与えあいながら調査に従事できるよう工夫した。

調査結果は、12月に、教育担当理事、国際交流担当理事、佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会の方々もお招きして、学内でポスター発表会を行った。閲覧者による投票の結果「A bite of Saga-佐賀丸かじり」が1位となった。さらに今年は、調査の結果を冊子にまとめた。その冊子は、新入留学生等に配布し、佐賀での生活がより便利になるように、活用されている。



成果報告



グループごとに作成した冊子

3.2 ランゲージ・ラウンジ

平成24年度の4月から韓国留学から帰国した学生を中心として韓国語のグループを立ち上げ、毎週水曜日の夕方1時間、韓国語で会話を楽しむ空間がキャンパスにできた。参加者は韓国人留学生を含め平均10名と小規模ではあるが、日本人学生による韓国語のブラッシュアップのみならず、日韓学生の密な関係を育む機会となった。

後期はこの活動を拡大し、韓国語グループに加え、中国語と英語のグループを開始した。交換留学から帰国した学生5名がファシリテーターとなり、毎週水曜日の午後、各言語1時間程度で交流を多なった。

この取り組みの目的は、外国語をカリキュラムの一つとして学ぶ学生は多いが、実際に学んだ外国語を使う機会が非常に少ないため、学生が気軽に参加できる場を作り、外国語による会話を楽しみながら外国語学習への意欲を高めることが一つあげられる。また留学生と日本人学生が互いの文化や社会について、楽しみながら学ぶ機会を増やし、異文化への理解や関心を高め国際性を養うとともに、キャンパス全体の国際化も推進しようとするねらいがある。各言語のラウンジでは授業とは一味違った、学生ならではの思考を凝らしたテーマ、アクティビティを行っている。



中国語ラウンジ



英語ラウンジ

SAGA UNIVERSITY 2012 FALL

LANGUAGE LOUNGE

佐賀大学ランゲージ・ラウンジ

ファシリテーター紹介

鎌山 大(英語)
経済学部経済システム学科3年
佐賀大学に留学。経済学部も9月に卒業。現在は母国の大学院進学を準備中。

津山 優(韓国語)
文化教育学部国文学科4年
佐賀大学に留学。韓国語グループのファシリテーターを今年4月から担当。

尾崎 真(中国語・中国)
経済学部経済システム学科3年
北京工業大に交換留学

森村 祥太(中国語・中国)
経済学部経済システム学科3年
北京工業大に交換留学

基本 真(中国語・中国)
経済学部経済システム学科2年
台湾の国立中央大学に交換留学

**毎週水曜日は外国語で
会話を楽しむ日**

10月10日(水)から始まります!

ランゲージ・ラウンジは
「外国語でのコミュニケーションに自信がない」
「もっとブラッシュアップしたい」 「留学生と交流したい」
「留学経験者から話を聞いてみたい」
という皆さんにお勧めです

タイムテーブル		
ENGLISH	한국어	中文
13:00-14:00	14:00-15:00	12:00-13:00

問い合わせ：国際交流推進センター 山田 真子
メールアドレス：yamada@cc.saga-u.ac.jp
電話：0952-28-8457

目標がなくても大丈夫。
みんなが学びます！

場所：留学生交流室
本庄キャンパス
学生センター2階

平成24年度後期ランゲージ・ラウンジ案内ポスター

Ⅲ. 学術研究交流部門

1. 研究者海外派遣の支援（申請10件中採択8件）

	氏名 所属	国名	海外派遣機関名	派遣期間	支援金額
1	薬師寺祐介 助教 医学部	イギリス	ロンドン大学神経内科	平成24年12月30日～ 平成25年3月31日	1,000,000円
2	竹下 道範 准教授 工学系研究科	フランス	リール第1大学	平成24年11月25日～ 12月9日	439,621円
3	高 炎輝 助教 工学系研究科	イギリス	カージフ大学 ウォルフソン磁性材料研究所	平成25年2月14日～ 3月15日	986,895円
4	辻 一成 准教授 農学部	インドネシア ベトナム	インドネシア国立甘味 繊維作物研究所 ハノイ農業大学	平成25年3月3日～ 3月17日	400,000円
5	藤村 美穂 准教授 農学部	インドネシア ベトナム	インドネシア国立甘味 繊維作物研究所 ハノイ農業大学	平成25年3月6日～ 3月14日	324,185円
6	高橋 智 准教授 工学系研究科	フランス フィンランド	パリ・ディドロ大学 ヘルシンキ工科大学 ヘルシンキ大学	平成25年1月20日～ 2月3日	490,230円
7	山津 幸司 准教授 文化教育学部	アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校	平成25年2月1日～ 3月5日	970,090円
8	吉川 達 講師 全学教育機構	マレーシア	マラヤ大学	平成25年3月11日～ 3月21日	299,340円
				合 計	4,910,361円

【成果報告】

1. 薬師寺 祐介 助教（医学部）「アジア人種とヨーロッパ人種間での脳小血管病の臨床的・画像的相違の検証
 今回の海外派遣の主目的は人種間での脳小血管病の臨床的背景や脳画像異常様式の相違について検証することである。この点においては、本領域の欧州のリーダーである派遣先の David Werring 博士も同様に興味を持っている。また類似した臨床研究が DECIPHER study として米国でも開始されており、派遣目的は先駆的なものだと考える。この3ヶ月で、派遣先のロンドン大学神経内科と、佐賀大学医学部神経内科のデータベースの融合化のための基盤を構築した。まだ完成してないが、2011年の対象患者データの匿名化、融合は3月末までに終える予定である。2011年分のデータ初期解析からは、アジア地区と欧州間では脳小血管症には明らかな臨床的相違がある傾向を確認した。

2. 竹下 道範 准教授（工学系研究科）「光可逆的超分子ポリマーのフォトクロミック挙動」

本プログラムの目的はリール第一大学の Guy Buntinx 教授の研究室との共同開発をさらに進めるとともに、新しい研究テーマである光可逆的超分子ポリマーのフォトクロミック挙動について、先方において実際にポリマー

のフィルムを作成し、様々な測定を行うことであった。今回目標は達成されたがすぐに論文になるようなテーマは得られなかった。引き続き共同研究を密にやっていく必要があると思われる。共同研究を進めるにあたって、人間関係の構築は重要なものの一つだが今回2週間滞在することで良好な人間関係を築くことができた。これは今後共同研究を発展させる礎となるものと考えられる。

3. 高 炎輝 助教（工学系研究科）「電気機器鉄芯の磁気特性モデリング技術の開発および欧州の磁界解析の動向調査」

カーディフ大学（英国）に滞在し、我々の「鉄芯材料のモデリング技術」に関して研究紹介し、議論した。また、カーディフ大学の電磁鋼板のBH曲線、鉄損、磁歪、磁区構造、異常渦電流損の各種測定法を把握するとともに、今後のモデリング技術の開発で必要となる測定結果を入手した。さらに、互いのモデリング方法の比較検討を行い、特に、渦電流損のモデリングでは厚み方向の磁束の表皮効果の取扱法が異なるなど、今後の研究方針が明らかになった。その後、リエージュ大学（ベルギー）、アーヘン工科大学（独国）、グルノーブル工科大学（仏国）、グラーツ大学（オーストリア）を訪問し、世界最先端の研究所を見学するとともに、それぞれ我々の「積層鉄芯のモデリング」、「磁歪のモデリング」、「回転機のモデリング」、「大規模解析」に関して研究紹介し、議論した。さらに、昨年度申請した頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「日欧国際共同研究による次世代磁界解析技術の開発」の説明を行い、全ての機関から平成25年度の申請に加わって頂く了解が得られるとともに、役割分担案を決定し、申請内容の改善案や要望もご教示頂いた。以上のように、当初の目的・目標は達成できた。

4. 辻 一成 准教授（農学部）「東南アジアのバイオ燃料開発が農村社会経済に与える影響評価に関する調査研究及び若手研究者の育成に向けた国際連携・協力体制の確立」

両国で同種の研究プロジェクトの中核を担っている研究所、バイオ燃料の生産・流通に関係している大手企業とその組織の代表者、またそれら企業との契約で原料生産を行っている農家集団との関係が構築でき、今後の共同研究の計画と推進についての了解と期待が得られ、当初の目標を上回る成果が得られた。さらに、これに関係する人材育成（教育）について本学の若手研究者の派遣のみならず、相手国からも留学等の機会を得て相互協力の下で人材育成を図る必要性が強く要望された。これらに真摯に応えることが必要である。

5. 藤村 美穂 准教授（農学部）「東南アジアのバイオ燃料開発が農村社会経済に与える影響評価に関する調査研究及び若手研究者の育成に向けた国際連携・協力体制の確立」

情報収集および現地との関係づくりを目標にしていたが、とくに我々にとっての新たな調査地であるインドネシアにおいては、現地企業、研究所などを訪問し、今後の調査協力の手がかりを得ることができたという点では有意義な渡航であった。ただ、派遣期間については、農学部で教務関係委員などを担当している辻と藤村および相手国研究者の日程調整が順調にはいかず、当初の予定を年度末の3月に渡航することになった。

6. 高橋 智 准教授（工学系研究科）「宇宙の構造の起源と初期宇宙進化論」

今回の訪問では宇宙密度揺らぎの（主に）非ガウス性を用いた初期宇宙現象の解明に関する共同研究について議論を行った。特に、今回、現在提唱されている様々な初期宇宙密度揺らぎの生成メカニズムを包括するような定

式化の研究について議論を行い、大きな進展があった。この定式化は様々なメカニズムにおいて（通常議論されている）断熱的な揺らぎと等曲率揺らぎの両方を包括的に扱うことができ、近々公表される予定の Planck 衛生（宇宙背景放射の揺らぎを精密に観測する衛星）のデータを解釈する際に、非常に有用になってくると思われる。

7. 山津 幸司 准教授（文化教育学部）「青少年から高齢者までの身体活動促進による認知機能改善に関するヘルスサイエンス研究拠点の構築」

今回訪問した Sallis 教授に紹介いただいた Kerr 講師は、子供から高齢者までの認知機能に対する研究を進めており、今後の共同研究の実施に前向きな意見をいただくことができた。Sallis 教授が中心となり世界規模で展開している Active Living Research や IPEN などの国際研究プロジェクトの展開のスピード感を体験することができた。本プロジェクトには欧米の研究機関以外に、日本、シンガポール、マレーシア、台湾、アルゼンチンやアフリカ諸国へとネットワークが急拡大しており、今後アジアでの共同研究体制を構築できる可能性がでてきた。米国内でもトップクラスの研究大学である UCSD では、医学や工学、公衆衛生分野で活躍する健康スポーツに関する若手研究者と交流を持つことができた。

8. 吉川 達 講師（全学教育機構）「マレーシア日本語学習者の日本語読解能力に関する研究」

本派遣で当初の目的である「共同研究者との研究成果の共有」および「当該機関への成果の報告」はともに達成された。共同開発者はじめほかのマレーシア人教員との研究成果を経て新たな課題が明らかとなり、今後の研究の方向性を確認することができたことは大きな成果である。当該機関だけでなく、現場に還元するための方法にまで踏み込んで話し合えたことは評価に値する。

2. 国際研究集会の支援 (申請7件中採択5件)

	氏名 所属	開催地	研究集会名	開催期間	参加者	支援金額
1	田中 豊治 教授 文化教育学部	佐賀大学	アジア国際人材育成シンポジウム—循環型国際協働教育システムの構築を目指して—	平成24年12月1日	200	529,646円
2	白武 義治 教授 農学部	佐賀大学	グローバル化に対応する先進的農業経営・農業関連産業の担い手育成に関する日中韓共同セミナー	平成24年11月30日～ 12月2日	30	378,326円
3	青木 歳幸 教授 地域学歴史 文化研究センター	佐賀大学	第二回在来知歴史学国際シンポジウム	平成24年10月25日～ 10月28日	275	997,394円
4	林田 行雄 教授 工学系研究科	佐賀大学	国際会議 ICC2012 (佐賀大学主催「第1回佐賀コンテンツデザインコンテスト」を独自開催)	平成24年12月14日～ 12月16日	300	1,000,000円
5	荒木 宏之 教授 低平地沿岸 海域研究センター	佐賀大学	ASEAN 低平地研究教育セミナー	平成25年3月11日～ 3月18日	35	999,901円
					合計	3,375,621円

【成果報告】

1. 田中 豊治 教授 (文化教育学部)「アジア国際人材育成シンポジウム—循環型国際協働教育システムの構築を目指して—」

参加者数はほぼ満席で、補助椅子を出すほどの盛況であった。参加者も単に学内学生だけでなく、学外からも研究者、市民活動家、一般市民、ホストファミリー等も含まれ、幅広いジャンルから集会してもらった。「若者フォーラム」に出演した3か国の学生が、「プレゼン」を通して大きく成長し、自信となり、今後の「アジア研究会」組織の創立に弾みをつけた。双方向交流による留学効果も大いに期待できそうである。

2. 白武 義治 教授 (農学部)「グローバル化に対応する先進的農業経営・農業関連産業の担い手育成に関する日中韓共同セミナー」

事業終了直後に韓国国立忠北大学校農業 CEO 課程学生の研修受入打診があり、今後の交流をいっそう深めるためこれを了承することにした。佐賀県農業大学校で実践されている on-farm 型トレーニング法は、特に韓国からの参加者の関心が高く、今後の教授法改善にとって大いに参考になることが強調された。東京農大プロジェクトの新製品開発を基盤にした革新的経営者育成はその規模と組織、教育の内容と質、事業成果の社会還元の点で学ぶべきことが多く大いに示唆を受けた。

3. 青木 歳幸 教授 (地域学歴史文化研究センター)「第二回在来歴史学国際シンポジウム」

ISHIK2012は、全ての企画が予定通りに実施され、日中両国の科学技術・経済の発展の原動力を在来知でさぐるという本シンポジウムの目的が深化した。佐賀大学と中国清華大学、中国社会科学院等、中国研究教育機関及び

研究者相互の国際交流のきずなが強まったことは大成功と評価している。

4. 林田 行雄 教授（工学系研究科）「国際会議 ICCCC2012」（佐賀大学主催「第1回佐賀コンテンツデザインコンテスト」を独自開催）

ICCC 国際会議2012を韓国コンテンツ学会との共催で実施し、佐賀大学からも口頭発表35件、ポスター発表6件コンテンツデザイン作品3件、第1回佐賀大学コンテンツデザインコンテストには63件（高校生16件、若手27件、韓国20件）の応募があり、非常に盛況であった。コンテンツに関わる国際交流と情報交換を行うという目的を果たし、かつ目標を達成することができた。

5. 荒木 宏之 教授（低平地沿岸海域研究センター）「ASEAN 低平地研究教育セミナー」

本プログラムは、「低平地」という視点から、第一線で活躍している比較的若い低平地研究者が一堂に会し、特別講義、特別セミナー、現地視察、実験・実習、総合討議等を通じて共通理解を深めるとともに、将来、それぞれの国やアジアで低平地の諸問題解決と低平地の適正な開発や環境保全をリードできる人材の育成に資するRBEなど国際協働教育の在り方を議論することを目的とした。プログラムの終了後に参加者一堂に対してアンケート調査を実施しており、内容の分析を急いでいる。口頭による評価のレベルでは、参加国のいずれも類を見ないユニークなプログラムであり、内容も高密度であって、極めて高い評価が得られている。

IV. 地域国際連携室

1. 「平成24年度産学官国際交流セミナー」の開催

このセミナーは、佐賀県内の企業と留学生等の中で、佐賀地域の国際化の方向性および日本企業への就職について理解を深めることを目的として平成23年度より開催しており、佐賀地域留学生等交流推進協議会と佐賀県産業人材確保プロジェクト推進会議の主催で、海外進出・販路拡大を目指す企業、留学生のスキルに期待する企業、また、日本企業へ就職を希望する留学生および日本人学生を対象として開催した。

セミナーは三部構成となっており、第一部の全体セミナーでは、佐賀大学の外尾一則国際交流推進センター副センター長による、「佐賀大学国際戦略構想」の紹介、長崎大学宮川英樹准教授による「グローバル産業人材を活用した酷さビジネス展開」の演題で基調講演が行われた。

第二部の対象別セミナーでは、企業・留学生等に別れ、企業向けセミナーでは入国管理局に寄る「外国人労働者の雇用に関する在留資格等について」の説明とグローバル企業の事例紹介、留学生向けセミナーでは「日本での就職活動についての準備や対策について」の講話と日本の企業に就職した外国人留学生の体験談の発表が行われた。

第三部では、会場を移して圈内企業と留学生等の個別面談が行われた。企業の個別面談コーナーでは参加企業のうち10社がブースを設け、留学生派真剣な表情で企業担当者から話しを聞き、日本の企業について理解を深めていた。

また会場には、中国・インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム出身の留学生による母国の紹介コーナーが設けられ、留学生が装飾や楽器、衣装等を展示し紹介を行った。

【日 時】平成24年8月7日（火）13：00～17：30

【主 催】佐賀地域留学生等交流推進協議会、佐賀県産業人材確保プロジェクト推進会議

【後 援】佐賀県商工会議所連合会、財団法人佐賀県国際交流協会

【対 象 者】

（企業）海外進出又は販路拡大をめざす県内企業、留学生のスキルに期待する県内企業

（学生）日本企業への就職を希望する留学生及び日本人学生

【参 加 者】留学生など160名、企業23社

【プログラム】

（第一部）理工学部6号館大講義室

- ・佐賀大学国際戦略構想（佐賀大学国際交流推進センター 外尾副センター長）
- ・基調講演（長崎大学工学系研究科 宮川准教授）

（第Ⅱ部）

[企業向け]

- ・外国人労働者の雇用に関する在留資格等について
福岡入国管理局佐賀出張所 井原上席入国審査官
- ・グローバル人材活用の優良事例紹介
株式会社戸畑ターレット工作所 清水代表取締役社長
株式会社キザクラ 草野常務取締役

[留学生向け]

- ・留学生就職セミナー（九州グローバル産業人材協議会 宮本マネージャー）
- ・留学生の就職体験談（佐賀大学卒業生、弘堂国際学園卒業生）

（第Ⅲ部）理工学部6号館多目的セミナー室

- ・出店企業の個別面談及び留学生の母国紹介



2. 佐賀大学国際交流推進センター主催講演会

佐賀大学国際交流推進センター主催講演会を実施した。講師のチャン・ウェイシャンさんは、シンガポールの投資会社の代表取締役であり、日本での留学経験もあり、インターンシップをエンカレッジしているビジネスマンである。本学の学生に海外留学、インターンシップを勧めてくれ、国際人材育成の一助になるものと考え、講演会にお招した。佐賀大学国際交流推進センター主催講演会は42名の参加者を得て成功裡に終了することができた。質疑応答では多くの学生からの質問があり、講師の留学経験を通じた的確な回答、アドバイスがあった。なお、講師の希望もあり、衛星の恵みうれしの茶を生産する茶畑をご案内して友好を深めることができた。

【日 時】平成24年10月17日16：20－17：50

【開催場所】佐賀大学理工学部7号館1階 AV 講義室

【招聘講師】チャン・ウェイシャン氏

講師略歴：日本留学、シンガポール経済開発庁東京局局長、アジア太平洋統括室 室長等歴任、
TOYONAKA INVESTMENT AND CONSULTANCY PTE LTD 代表 取締役

【対象者】学生、教職員

【プログラム】

- (1) 開会挨拶：中島 晃 国際交流担当副学長
- (2) 講演：海外企業のインターンシップ、留学とジョイントベンチャーの勧め
- (3) インタラクティブセッション（質疑応答）
- (4) 閉会挨拶：新井康平 地域国際連携室長



チャン・ウェイシャン氏

資料1：学長・理事表敬訪問

平成24年4月17日 北京工業大学（中国）による学長表敬訪問

佐賀大学と北京工業大学の学術交流の推進とグローバル化における教員・学生の交流と共同研究のあり方について協議するため GUO Guangsheng 学長はじめ他4名が訪問



平成24年4月27日 韓国コンテンツ学会会長による学長表敬

佐賀大学と Kocon（韓国コンテンツ学会）との情報コンテンツ国際学会（ICCC2012）開催における覚書締結の調印ならびに ICCC2012の事前打ち合わせのため、Oh Young Sun 会長他3名が訪問



平成24年4月19日 アンザン大学（ベトナム）カントー大学（ベトナム）アンザン省科学技術局他の学長表敬訪問

来訪者は Mr. Nguyen Van Phuong ベトナム・アンザン省科学技術局・局長、Dr. Doan Huu Luc ベトナム・アンザン大学副学長、Prof. Duong Nhut Long ベトナム・カントー大学、他2名



平成24年 5月22日 浙江理工大学（中国） 中島理事表敬訪問
国際交流に関する意見交換のため、Prof. LI Fei 副学長他 4名が訪問



平成24年 6月21日 輔仁カトリック大学（台湾） 中島理事表敬訪問
学術交流に関する意見交換のため、Prof. Dr. Kuo-Inn Tso 医学部長他 5名が訪問



平成24年10月18日 韓国コンテンツ学会 学長表敬訪問

佐賀大学と Kocon（韓国コンテンツ学会）との情報コンテンツ国際会議（ICCC2012）開催における合意覚書締結（MoA）の調印ならびに ICCC2012の事前打ち合わせのため。また、佐賀大学への美術品贈呈を行うため。Oh Young Sun 会長他 8 名が訪問。



平成24年10月25日 第二回在来知歴史学国際シンポジウム参加中国側研究者の学長表敬訪問
中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員 李 毅 他 6 名



平成24年11月 1 日 マナド市長（インドネシア） 学長表敬訪問

国際交流に関する意見交換のため、Godbless Sofcar Vicky Lumentut マナド市長他10名が訪問。



平成24年11月13日 サムラトランギ大学（インドネシア） 中島理事表敬訪問
 佐賀大学とサムラトランギ大学との学术交流の推進と教員ならびに学生の交流と大学のマネジメントシステムのあり方について協議するため。Prof. Bernabas Harold Ralph Kairupan 学生担当副学長他7名が訪問。



平成24年11月30日 王立プノンペン大学（カンボジア）
 大学間学术交流協定及び学生交流覚書の調印式のため、
 Prof. Lav Chhiv Eav 王立プノンペン大学長、Prof. Loch Leaksmy 日本語学科長が訪問。



平成25年1月25日 韓国技術教育大学校（韓国） 中島理事表敬訪問
産学連携についての議論のため、Prof. Park No Gil 他3名が訪問



平成25年1月25日 牧園大学校（韓国） 学長表敬訪問
今後の学生交流についての意見交換（ツイニングプログラム、短期夏季研修等）のため、
金 元培総長他2名が訪問。



資料2：国際交流推進センター事業関連の海外出張・訪問

期間	行先（国）	訪問先	用件	出張者名
平成24年 4月2日～26日	中国	香港中文大学、佐賀県香港事務所	双方向交流プログラム立ち上げ協議	山田直子 准教授
平成24年 6月1日～16日	中国	熊本上海オフィス	環黄海学長フォーラム打ち合わせ	藤田清士 教授
平成24年 8月24日～30日	アメリカ	パシフィック大学	語学研修プログラム引率	サウス・コールマン 准教授
平成24年 8月25日～ 9月2日	オーストラリア	シドニー工科大学、 モナシュ大学、ラト ローブ大学	シドニー工科大学短期研修に参加 する佐賀大学学生の引率及び現地 指導等、モナシュ大学短期研修プ ログラム立ち上げ、ラトローブ大 学学生交流意見交換	山田直子 准教授
平成24年 9月8日～12日	中国	浙江理工大学	校友の集い、浙江理工大学、浙江 大学、上海交通大学訪問	外尾一則 副センター 長 山田佳奈美 コーディ ネーター
平成24年 10月7日～11日	ニュージーランド	オークランド大学 ELA	短期派遣プログラム立ち上げ準備	山田直子 准教授
平成25年 2月4日～9日	アメリカ	パシフィック大学、 マニトバ大学	協定校訪問、学生交流に関する打 ち合わせ	藤田清士 教授
平成25年 2月16日～23日	オーストラリア	モナシュ大学 シドニー工科大学	協定校訪問、短期プログラム引率	山田直子 准教授
平成25年 2月22日～27日	ニュージーランド	オークランド大学 ELA	短期プログラム引率	藤田清士 教授
平成25年 2月24日～26日	中国	香港中文大学	短期プログラム引率、双方向型交 流プログラム（受け入れ）に関す る打合わせ	山田直子 准教授 吉川達 講師 吉岡邦浩 副課長
平成25年 3月17日～30日	リトアニア	ヴィタウタス・マグ ヌス大学、ヴィリ ニウス大学	新規協定校の開拓	山田直子 准教授
	フィンランド	ユバスキュラ大学、 タンペレ大学、在ハ ルシンキ日本大使館		
	スウェーデン	カールスタッド大学、 ウメオ大学		

資料3：国際交流推進センター規則

(平成23年9月28日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年1月1日制定）第11条の7第2項の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の部局及び地域社会と連携し一体となって、海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。

(室及び部門並びに業務)

第3条 センターに、前条に掲げる目的を達成するため、国際交流企画推進室及び地域国際連携室並びに学生交流部門及び学術研究交流部門を置く。

2 国際交流企画推進室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 国際戦略構想に基づく国際交流事業の企画推進に関すること。
- (2) 本学が海外に置くサテライトの整備、活用の施策・立案・実施に関すること。
- (3) 重点交流大学の選定に関すること。
- (4) 海外教育研究機関等との学術交流の協定及び学生交流の協定締結に関すること。
- (5) 国際交流の危機管理体制の整備に関すること。
- (6) 国際交流機関との連携に関すること。
- (7) 国際広報に関すること。
- (8) 卒業又は修了した留学生のネットワークの構築に関すること。
- (9) 海外教育研究機関等の情報収集及びコーディネート業務に関すること。
- (10) その他国際交流に関すること。

3 地域国際連携室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域社会及び産業界との国際交流推進のための連携・協力に関すること。
- (2) 佐賀県、市町村、産業界、各種団体等と連携した国際交流事業の企画・立案・実施に関すること。
- (3) 地域連携の国際ワークショップ等の企画・立案・実施に関すること。
- (4) 地域社会、産業界、各種団体と連携した留学生の奨学基金事業の実施に関すること。
- (5) 留学生の企業等のインターンシップ受入先の開拓に関すること。
- (6) 留学生の就職活動支援に関すること。
- (7) 地域社会と連携した留学生の支援に関すること。
- (8) 佐賀地域留学生等交流推進協議会の運営に関すること。
- (9) 留学生、地域社会、産業界及び各種団体とのコーディネート業務に関すること。
- (10) 地域への広報に関すること。
- (11) その他地域国際連携に関すること。

4 学生交流部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生受入れプログラムの開発支援に関すること。

- (2) 奨学金、宿舎等の留学生受入環境及び学生派遣環境の整備に関する事。
- (3) 重点交流大学とのジョイントプログラムの企画推進に関する事。
- (4) 国際教育プログラムの実施支援に関する事。
- (5) 海外教育研究機関等との学生交流の協定締結支援に関する事。
- (6) 留学生の生活指導及び相談に関する事。
- (7) 学生の派遣先の情報収集及び開拓に関する事。
- (8) 留学生の渡日時及び渡日後の在留手続支援業務に関する事。
- (9) 留学生の受入業務及び学生の派遣業務に関する事。
- (10) 派遣学生の査証取得等の在留手続支援業務に関する事。
- (11) 外国人留学生宿舎の管理運営に関する事。
- (12) その他学生交流に関する事。

5 学術研究交流部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 海外教育研究機関等との共同研究の促進に関する事。
- (2) 海外教育研究機関等との学術交流協定の締結支援に関する事。
- (3) 研究成果等の国際社会への情報発信に関する事。
- (4) 国際シンポジウム、国際セミナー等の企画・立案・実施に関する事。
- (5) 国際研究ネットワークの整備に関する事。
- (6) 研究者の渡日時及び渡日後の在留手続支援業務に関する事。
- (7) 研究者の受入業務及び派遣業務に関する事。
- (8) 派遣研究者の査証取得等の在留手続支援業務に関する事。
- (9) 外国人研究者宿舎の管理運営に関する事。
- (10) その他学術研究交流に関する事。

(鍋島サテライト)

第4条 センターに、鍋島地区における国際交流業務を遂行するため、鍋島サテライトを置く。

2 鍋島サテライトの業務に関し、必要な事項は、別に定める。

(職員)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 鍋島サテライト長
- (4) 室長及び部門長
- (5) 専任の教員
- (6) 併任の教員
- (7) 契約コーディネーター
- (8) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長は、理事のうち学長が指名した者をもって充てる。

2 センター長は、本学の国際交流事業を統括する。

3 センター長の任期は、当該理事の任期とし、再任を妨げない。

(副センター長)

第7条 副センター長は、本学の専任の教授のうちからセンター長が指名した者をもって充てる。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を掌理する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(鍋島サテライト長)

第8条 鍋島サテライト長は、本学の専任の教授のうちからセンター長が指名した者をもって充てる。

2 鍋島サテライト長は、センター長及び副センター長を補佐し、鍋島サテライトの業務を掌理する。

3 鍋島サテライト長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 鍋島サテライト長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長及び部門長)

第9条 室長及び部門長は、センターの専任の教員又は併任の教員のうちから、センター長が指名した者をもって充てる。

2 室長及び部門長は、室及び部門の業務を掌理する。

3 室長及び部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 室長及び部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(国際コーディネーター)

第10条 センターに、国際コーディネーターを置き、センターの専任の教員及び契約コーディネーターをもって充てる。

2 国際コーディネーターは、センター長及び副センター長を補佐し、センターの業務を横断的かつ包括的に処理する。

(専任の教員及び契約コーディネーターの選考)

第11条 専任の教員及び契約コーディネーターの選考は、第14条に定める運営委員会の議を経て、学長が行う。

(併任の教員)

第12条 併任の教員は、センター長及び部局長の推薦に基づき、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

2 併任の教員は、室及び部門に配置し、国際コーディネーターと協働して、室及び部門の業務を処理する。

3 併任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(国際マネージャー)

第13条 センターに、国際マネージャーを置き、学術研究協力部国際課長をもって充てる。

2 国際マネージャーは、国際コーディネーター並びに室及び部門との調整を図る。

(運営委員会)

第14条 センターに、国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）

を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
 - (2) センターの人事に関する事項
 - (3) 本学の国際化に係る具体的施策の策定及び実施に関する事項
 - (4) センターの予算及び決算に関する事項
 - (5) 室及び部門での企画・立案に関する事項
 - (6) その他センターの管理運営に関する重要事項

(組織)

第15条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) 鍋島サテライト長
 - (4) 室長及び部門長
 - (5) 専任の教員（国際コーディネーター）
 - (6) 各学部（理工学部を除く）から選出された教員 各1人
 - (7) 工学系研究科から選出された教員 1人
 - (8) 全学教育機構から選出された教員 1人
 - (9) 教養教育運営機構から選出された教員 1人
 - (10) 留学生センターから選出された教員 若干人
 - (11) 契約コーディネーター（国際コーディネーター）
 - (12) 学術研究協力部国際課長（国際マネージャー）
- 2 前項第6号から第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
 - 3 第1項第6号から第10号に掲げる委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第16条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第17条 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教員の人事に関する事項及び特に重要な事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(専門委員会)

第18条 運営委員会に、専門的事項を審議するために、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

(意見の聴取)

第19条 運営委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第20条 センター及び運営委員会の事務は、学術研究協力部国際課が行う。

(雑則)

第21条 この規則に定めるもののほか、センターに関し、必要な事項については、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 国立大学法人佐賀大学国際貢献推進室設置規則（平成16年5月18日制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に任命される第7条の副センター長及び第8条の鍋島サテライト長並びに第9条の室長及び部門長の任期は、第7条第3項、第8条第3項及び第9条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 4 この規則施行後、最初に任命される第12条の併任の教員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 5 この規則施行後、最初に任命される第15条第1項第6号から第10号までの委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

資料4：大学間学術協定校一覧

平成25年3月現在

No.	国名	大学名	国公私等
1	大韓民国	全南大学校	国立
2		安東大学校	国立
3		国民大学校	私立
4		釜山大学校	国立
5		木浦大学校	国立
6		釜慶大学校	国立
7		済州大学校	国立
8		韓国技術教育大学	国立
9		光州女子大学校	私立
10		培材大学校	私立
11		牧園大学校	私立
12		大邱大学校	私立
13	中華人民共和国	華東師範大学	国立
14		北京工業大学	国立
15		首都師範大学	国立
16		中国農業大学	国立
17		遼寧師範大学	国立
18		ハルビン工業大学	国立
19		華東理工大学	国立
20		浙江理工大学	国立
21		西南政法大学	国立
22		浙江科技大学	国立
23		遼寧大学	公立
24	台湾	輔仁カトリック大学	私立
25		国立政治大学	国立
26		国立中興大学	国立
27		国立台北大学	国立
28		国立東華大学	国立
29		元培科技大学	私立
30		国立連合大学	国立
31		文藻外語大学	私立
32		ベトナム社会主義共和国	ハノイ農業大学
33	ノンラム大学		国立
34	ハノイ国家大学外国語大学		国立
35	ビン大学		国立
36	ベトナム国家大学ハノイ校自然科学大学		国立
37	ベトナム国家大学ハノイ校工科大学		国立
38	アンザン大学		国立

39	カンボジア王国	プノンペン王立法経大学	国立
40		王立農業大学	国立
41		王立プノンベン大学	国立
42	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学	国立
43	タイ王国	カセサート大学	国立
44		コンケン大学	国立
45		チェンマイ大学	国立
46		アジア工科大学	国立
47		モンクット王ラカバン工科大学	国立
48		タマサート大学	国立
49	インドネシア共和国	ハサヌデイン大学	国立
50		ガジャマダ大学	国立
51		サム ラツランギ大学	国立
52		リアウ イスラム大学	私立
53		スリビジャヤ大学	国立
54		ダルマプルサダ大学	私立
55		セベラスマレット大学	国立
56		ジュアンダ大学	私立
57		マラン国立大学	国立
58		ボゴール農業大学	国立
59	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ工科大学	国立
60		ラジャヒ大学	国立
61		バングラデシュ農科大学	国立
62		ジャハンギールナガール大学	国立
63		チッタゴン工科大学	国立
64		ダッカ工科大学	国立
65	スリランカ民主社会主義共和国	ペラデニヤ大学	国立
66	パキスタン・イスラム共和国	コハート科学技術大学	国立
67		ペシャワール大学	国立
68	英国	グラスゴー大学	国立
69	ルーマニア	アレクサンドルイオンクザ大学	国立
70	フランス共和国	ブルゴーニュ大学	国立
71		オルレアン大学	国立
72	ポーランド共和国	ルブリン工科大学	国立
73	アメリカ合衆国	アンダーソン大学	私立
74		カリフォルニア大学デイビス校	州立
75		パシフィック大学	私立
76		スリッパリーロック大学	州立
77	カナダ	マニトバ大学	国立
78		ウィルフリッド・ロリエ大学	国立
79	オーストラリア連邦	ラトロープ大学	国立
80		シドニー工科大学	国立

資料5：平成24年度 留学生数

平24. 5. 1 現在

国名 Countries	学部等 Faculties	学部 Undergraduates					大学院 Graduate Schools			
	文化教育学部 Faculty of Culture and Education	経済学部 Economics	医学部 Medicine	理工学部 Science and Engineering	農学部 Agriculture	修士課程（博士前期） Master's Course				
						教育学研究科 Education	経済学研究科 Economics	医学系研究科 Medicine	工学系研究科 Graduate School of Science and Engineering	
大韓民国 Republic of Korea	2			1		1				
中華人民共和国 People's Republic of China	5	26		13	3	11	10	4	8	
台湾 Taiwan			1							
タイ王国 Kingdom of Thailand										
マレーシア Malaysia	1			16						
インドネシア共和国 Republic of Indonesia									1	
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka							1			
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh										
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	5					6				
モンゴル国 Mongolia		1								
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal										
ポーランド共和国 Republic of Poland										
ウガンダ共和国 Republic of Uganda										
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran										
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic										
フランス共和国 French Republic										
カンボジア王国 Kingdom of Cambodia										
計 Total	13	27	1	30	3	18	11	4	9	

国名 Countries	学部等 Faculties	大学院 Graduate Schools					研究生 科目等 履修生 特別聴講 学生 Research Part-Time Students Special Audit	鹿児島大学 大学院連合 農学研究科 United Graduate School of Agricultural Kagoshima University	日本語 研修 コース Intensive Japanese	小計 Subtotal		合計 Total	
		修士課程 (博士前期) Master's Course	博士課程 Doctoral Course	博士後期 Doctoral Course	特別コース 博士前期／修士 PSJP Course Master's					特別コース 博士後期 PSJP Course Doctoral	国費 National Expense		私費 Private Expense
		農学研究科 Agriculture	医学系研究科 Medicine	工学系研究科 Graduate School of Science and Engineering	工学系研究科 Graduate School of Science and Engineering	農学研究科 Agriculture				工学系研究科 Graduate School of Science and Engineering			
大韓民国 Republic of Korea		1		1						0	19	19	
中華人民共和国 People's Republic of China		3	3	15	4		4	33	3	7	138	145	
台湾 Taiwan				1		1		6		0	9	9	
タイ王国 Kingdom of Thailand							3	3		1	5	6	
マレーシア Malaysia				3						0	20	20	
インドネシア共和国 Republic of Indonesia		1	2	7	1		7	1	8	2	26	28	
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka				2		1	2		3	6	3	9	
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh				2		1	4	1	5	9	4	13	
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam				2				2	2	1	14	18	
モンゴル国 Mongolia										0	1	1	
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal				1			4			2	3	5	
ポーランド共和国 Republic of Poland							1			1	0	1	
ウガンダ共和国 Republic of Uganda									1	1	0	1	
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran					1					0	1	1	
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic						1				1	0	1	
フランス共和国 French Republic								1		0	1	1	
カンボジア王国 Kingdom of Cambodia								1		1	0	1	
計 Total		5	5	34	6	4	25	61	22	1	35	244	279

資料6：国際交流推進センター名簿

平成25年3月1日現在

国際交流推進センター運営委員会委員

中島 晃 理事・副学長・国際交流推進センター長
 外尾 一則 教授（国際交流推進センター副センター長）
 藤田 清士 教授（国際交流推進センター）
 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）
 青木 洋介 教授・鍋島サテライト長（医学部）
 新井 康平 教授・地域国際連携室長（理工学部）
 岡島 俊哉 教授（文化教育学部）
 栗林 佳代 准教授（経済学部）
 熊本 栄一 教授（医学部）
 村松 和弘 教授（工学系研究科）
 野間口真太郎 教授（農学部）
 早瀬 博範 教授（全学教育機構）
 古賀 弘毅 准教授（全学教育機構）
 中山亜紀子 准教授（全学教育機構）
 辻 一成 准教授（全学教育機構）
 永田 恒久（国際課長・国際マネージャー）
 山田佳奈美（国際コーディネーター）

国際交流企画推進室

外尾 一則 教授・室長（副センター長）
 北川 慶子 教授（文化教育学部）
 早瀬 博範 教授（文化教育学部）
 ラタナーヤカ ピヤダーサ教授（経済学部）
 高野 吾朗 准教授（医学部）
 萩原 世也 教授（工学系研究科）
 辻 一成 准教授（農学部）
 藤田 清士 教授（国際交流推進センター）
 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

学生交流部門

山田 直子 准教授・部門長
 中尾友香梨 准教授（文化教育学部）
 小田 康友 准教授（医学部）
 村松 和弘 教授（工学系研究科）
 上野 大介 講師（農学部）
 横溝紳一郎 教授（全学教育機構）
 古賀 弘毅 准教授（全学教育機構）
 丹羽 順子 准教授（全学教育機構）
 中山亜紀子 准教授（全学教育機構）
 吉川 達 講師（全学教育機構）
 Coleman South 准教授（全学教育機構）
 藤田 清士 教授（国際交流推進センター）

学術研究交流部門

杉山 晃 教授・部門長（工学系研究科）
熊本 栄一 教授（医学部）
大渡 啓介 教授（工学系研究科）
野間口眞太郎 教授（農学部）
外尾 一則 教授（副センター長）
藤田 清士 教授（国際交流推進センター）
山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

地域国際連携室

新井 康平 教授・室長（工学系研究科）
田中 豊治 教授（文化教育学部）
田中 宗浩 准教授（農学部）
外尾 一則 教授（副センター長）
藤田 清士 教授（国際交流推進センター）
山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

鍋島サテライト

青木 洋介 教授
熊本 栄一 教授
高野 吾朗 准教授
小田 康友 准教授

学術研究協力部 国際課職員

課長	永田 恒久
副課長	吉岡 邦浩
係長	宮原 茂幸
係長	副島 加代子
主任	木村 政治
事務員	木下 翔太郎
事務補佐員	野口 尊子
事務補佐員	光吉 智美
事務補佐員	針長 佑里恵
臨時用務員	王丸 文子
国際アソシエイト	張 金玥

資料7：平成24年度国際交流推進センター関連行事カレンダー

H24	佐賀大学生の派遣・教育・支援	留学生に対する教育・支援	国際交流推進事業
4月		4日 日本語コース プレースメントテスト 5日 新入留学生のためのオリエンテーション 日本語コース オリエンテーション 28日 日本語・日本文化研修コース、SPACE 学外実施研修（福岡市・太宰府市）	10日 North Island College 佐大訪問 17日 北京工業大学 学長表敬訪問 19日 アンザン大学 カントー大学 24日 第1回国際交流推進センター運営委員会
5月	16日 留学フェア2012	11日 新入留学生歓迎パーティー 31日 消防訓練（国際交流会館）	14日 オークランド大学 佐大訪問 22日 浙江理工大学理事表敬 28日 第2回国際交流推進センター運営委員会 30日 台北教育大学
6月		2日 鹿島高校と留学生の交流会、鹿島市ホームステイ、鹿島ガタリンピック参加 （鹿島ガタリンピック実行委員会主催） 21日 スタディーツアー（北海道 ～24日）	14日 環黄海学長会議準備会議 （連運港市 ～17日） 19日 第3回国際交流推進センター運営委員会 21日 北海道スタディーツアー（～24日） 第4回国際交流推進センター運営委員会 （メール会議）
7月	12日 パシフィック大学・シドニー工科大学プログラム 事前研修 19日 海外留学危機管理オリエンテーション	7日 日本語・日本文化研修コース、SPACE 学外実施研修（鳥栖・朝倉）	19日 第5回国際交流推進センター運営委員会 31日 シドニー工科大学（UTS）訪問 （協定書準備）
8月	24日 パシフィック大学研修 （～9月22日） 25日 シドニー工科大学留学研修 （～9月16日）	22日 SPACE・日本語・日本文化研修コース 修了式	7日 平成24年度産学官国際交流セミナー 16日 第6回国際交流推進センター運営委員会 （メール会議） 24日 第7回国際交流推進センター運営委員会 25日 UTS 訪問（協定書締結） モナシュ大学（プログラム打ち合わせ） ラトロープ大学（協定再締結 ～9月2日）
9月		11日 留学生のための進路相談会（博多） 24日 チューターオリエンテーション	25日 第8回国際交流推進センター運営委員会
10月	31日 海外留学成果報告会	3日 SPACE 開講式 19日 新入留学生のためのオリエンテーション 25日 国費学部留学生に対する説明会 （東京外国語大学）	10日 ランゲージラウンジ開設 17日 国際交流推進センター主催講演会 チャン氏 24日 第9回国際交流推進センター運営委員会
11月		25日 佐賀地域外国人留学生等スタンプラリー （吉野ヶ里）	1日 マナド市長 学長表敬 13日 サムラトランギ大学 学長表敬 27日 第10回国際交流推進センター運営委員会 30日 王立ブノンベン大学 協定調印式
12月		1日 日本語・日本文化研修コース、SPACE 学外実施研修（伊万里・吉野ヶ里）	5日 被爆体験講話 第11回国際交流推進センター運営委員会 （メール会議） 19日 留学生・日本人学生 交流プレゼンテーションプロジェクト 25日 第12回国際交流推進センター運営委員会
H25 1月		18日 もちつき大会 25日 外国人留学生向けキャリア支援講座	25日 韓国技術教育大学理事表敬 牧園大学学長表敬 31日 第13回国際交流推進センター運営委員会
2月	13日 危機管理オリエンテーション 14日 モナシュ大学研修プログラム （～3月16日） 22日 オークランド大学研修プログラム （～3月17日） 24日 香港中文大学研修プログラム （～3月5日）	2日 日本語・日本文化研修コース、SPACE 学外実施研修（小城） 19日 留学生研修旅行（鹿児島）（～20日）	1日 「外国人留学生の教育・指導・支援を考 える－教職員による支援と学生セミナー ピアサポート」 4日 パシフィック大学訪問（協定再締結） マニトバ大学訪問（協定打ち合わせ～9日） 6日 国立大学法人留学生指導研究協議会 （大阪大学） 28日 第14回国際交流推進センター運営委員会
3月		28日 チューターオリエンテーション	17日 協定校拡充のための欧州大学訪問 （フィンランド、スウェーデン、リトアニア） 29日 第15回国際交流推進センター運営委員会

平成23・24年度年報

佐賀大学国際交流推進センター

Center for promotion of International Exchange Saga University

840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1 佐賀大学 国際交流推進センター

電話：0982-28-8589

Fax：0952-28-8819

<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/>